

# 第1章 2015年度 法政大学ボランティアセンター活動報告

## 巻頭言

法政大学ボランティアセンター長 宮下清栄

ボランティアセンターは各キャンパスに設置されており、それぞれ地域特性にもとづいた活動を行っておりますので、各キャンパスの活動はそれぞれの章を参照していただくこととして、ここでは全学的な活動と市ヶ谷について振り返ってみることにします。

市ヶ谷ボランティアセンターには地域貢献ボランティアなどを中心に活動している「ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）」と被災地支援などの活動を行う「チーム・オレンジ」の2団体の学生があり、この学生達が中心になり企画の立案から実施計画の作成を行っております。教職員は黒子として支援することに徹して学生の主体性を育むようにしています。

地域貢献として「九段靖国通り地区清掃ボランティア」と「キャンパス周辺清掃ボランティア」を毎月実施しておりますが、参加者数はあまり多くないことが悩みです。

春の基幹プロジェクトである「富士山外来種植物駆除」ツアーを関西大学と合同で実施しました。地元のNPO法人「富士山クラブ」の協力・指導のもと、生物多様性についてのお話を伺った後、外来植物駆除を行い爽快な汗を流すことができました。

また、初めての試みですがハンガリー剣道ナショナルチームのコーチをしている伊藤マモル先生の仲立ちにより東京で開催された世界剣道選手権大会に参加した7名の選手と交流ボランティアを実施しました。交換留学生と課外教養プログラム学生スタッフなどとの協力により英語の案内マニュアルの作成し、皇居散策と神楽坂ツアーを実施しました。異文化交流には言語は勿論のこと、まず日本の歴史や文化を知ることが重要と改めて学生自身の気づきがあり、今後もこのような活動を続けたいとの思いが高まったようです。また学内の諸団体と協力することで活動の範囲が広がることも実感できたようです。

ボランティア総合講座の一環で夏の被災地復興支援プロジェクトの準備段階として「被災地の今を知る」ために毎年お世話になっているNPO法人の田村氏を迎え現状と後方支援の在り方を講演いただきました。震災から4年が経過し当時中高生であった本学の学生の記憶の風化防止とボランティア参加を促すことにつながることを思います。更に「災害救援ボランティア」講座を実施し、上級救命技能認定やセーフティリーダー認定の資格を20名程度学生が取得しました。今後首都圏の災害を想定するとこのような講座に多くの学生が参加してくれることを望んでいます。

ボランティア支援プロジェクトとしては「七夕フェスタ」や東北物産展を実施しエコキャップ回収や復興支援活動を行い多くの参加者にご協力いただき例年以上の成果がありました。

夏休みには被災地復興支援プロジェクトとして「遠野被災地支援」に第 23 次隊から 26 次隊を派遣し、畑の整備、漁協でのわかめの出荷作業などの被災地自立支援を中心に活動し、さらに仮設住宅を訪問して被災者の生の声を聴くとともに交流を深めました。今年度から大学の被災地支援の取組を知っていただくために手書きの「チーオレ新聞」を事前に配布しており交流促進に寄与していました。

春には時とともに風化していく震災の記憶をとどめるために、福島スタディーツアーを実施しました。新入生の参加も多くまだまだ関心を寄せてくれていると心強く思いました。NPO の方から復興状況のお話を聞くとともに、原発の復興拠点である J ヴィレッジも視察し東京電力の方から説明を皆真剣に聞き入りました。

また、基幹プロジェクトの「夕張まちづくりボランティアツアー」を実施しました。夕張市は財政破綻し、最盛期には 12 万程度であった人口が現在は 1 万人弱へと減少し、人口減少社会の今後の日本のあるべき姿を検証するためには最適な学びの場であると言えます。ボランティア活動は勿論のこと地方自治に興味がある学生の参加が多く、毎晩開かれた市役所職員・消防隊隊員・NPO の方々との交流は、まちづくりの様々な問題について考えるきっかけになりました。まちづくりには「ばかもの」「わかもの」「よそのも」が必要と昔から伝えられています。地元で真剣に活動している「まちづくりばか」に接することにより、本学の学生が「わかもの」「よそのも」の視点で新たな支援をしてくれるものと望んでいます。更に特別企画として講談師田辺凌鶴が語る（夕張再生市長 鈴木直道）を開催しました。本学の OB である鈴木市長の再生への取組を独特の節回しで語っていただき、歴史的経緯と奮闘の様子がより一層理解することができました。

3 月 11 日には付属 3 校と合同で募金活動を実施しました。当初懸念した震災の記憶の風化を心配しましたが、大学関係者をはじめとした多くの方々から募金を頂き、改めて法政ブランドを認識できました。

4 月には熊本地震が発生し、改めて我が国は災害大国と認識しました。ボランティア活動は的確なニーズを把握することが第一歩と言われております。今後も各地の NPO などと協力し、学生スタッフが主体となって企画立案・実施できるようより充実した体制を作り上げていく所存であります。

最後になりましたが、法政大学ボランティアセンターの活動に対し、ご理解とご支援を賜った皆様に、この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。



## 2015年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	285	243	42	119	21
5月	228	183	15	30	18
6月	173	151	6	16	22
7月	181	136	26	19	25
8月	43	35	4	4	16
9月	150	118	8	24	21
10月	197	161	13	23	22
11月	179	131	22	26	20
12月	171	138	22	11	18
1月	94	70	19	5	15
2月	79	56	12	11	20
3月	110	82	19	9	22
合計	1890	1504	208	297	240

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

## 2015年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	111	110	1	87	23
5月	59	56	3	52	17
6月	79	77	2	61	22
7月	60	49	11	48	23
8月	4	3	1	1	16
9月	44	43	1	39	21
10月	34	31	3	24	22
11月	54	46	8	33	20
12月	31	26	5	17	18
1月	17	12	5	14	15
2月	12	7	5	5	20
3月	12	4	8	7	22
合計	517	464	53	388	239

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

## 2015年度 法政大学ボランティアセンター全学運営委員会

回数	日程	議 題
第1回	7月9日	各地区ボランティアセンター活動計画（報告）、各地区ボランティアセンターの課題、東京6大学ボラセン連絡協議会について

## 2015年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議 題
第1回	4月23日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（春ボラ・エコキャップリサイクル工場ツアー）、チームオレンジ（学食企画・放課後ミーティングについて・法政フェアでの物産展参加について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（ハンガリー剣道NAチームとの文化交流ボランティアについて・大和証券補助金について・六大学連絡協議会について）、今後の予定
第2回	5月28日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（ハンガリー文化交流ボランティアについて、エコキャップの回収について）、チームオレンジ（学食企画について、放課後ミーティングについて、物産展の進捗状況について、基幹プロジェクト・ボラセン企画（ボランティア総合講座第3回：盲導犬との「ふれあい」から学ぶ盲導犬の一生について、六大学連絡協議会、夕張まちづくりボラ、遠野被災地ボラ開始について）、今後の予定
第3回	6月25日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（エコキャップバスツアー報告、七夕フェスタについて、夏ボラWEEKについて、地域貢献ボランティア市谷小編について）、チームオレンジ（学食企画について、放課後ミーティングについて、七夕フェスタについて、法政フェア物産展の進捗状況について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（まちのわイベントについて、遠野被災地ボランティアについて）、今後の予定
第4回	7月30日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（七夕フェスタについて、夏のボラWEEKについて地域貢献ボランティア市谷小編について）、チームオレンジ（学食企画について、七夕フェスタについて、東北物産展の報告、遠野事前検討会について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（ボランティア総合講座第4回「夕張再生市長 鈴木直道」について・サクラテラスまちのわ防災フェスタ・各プロジェクト申込み状況など）、今後の予定
第5回	9月24日	ボランティア情報審査、センター運営状況、進捗状況・結果報告：VSP（夕張まちづくりボランティアについて、ボランティア総合講座について、ボランティアセンター学生スタッフがコーディネートする地域貢献ボランティアについて）、）、チームオレンジ（学食企画について、法政フェア東北物産展、住友商事中間発表会、福島被災地スタディツアー、まちのわ防災フェスタについて）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（夕張まちづくりボランティア振り返りについて、遠野被災地ボランティアの振り返りについて）、今後の予定
第6回	10月22日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（学祭について、ボランティア総合講座の進捗状況について、冬ボラについて）、チームオレンジ現況報告（学食企画、防災訓練の協力について、東北被災地スタツアについて、防災企画進捗状況、学祭について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（わんぱくこどもまつり、富士山清掃、ボランティア総合講座第4回、ボラセン学生スタッフVSPがコーディネートする地域貢献ボランティア～わんぱくこどもまつり、福島スタツア）、今後の予定
第7回	11月26日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（ボランティア総合講座について、冬のボランティアWEEK、法政大学女子高校と古着回収の連携について）、チームオレンジ（学食企画について報告、防災訓練の協力について、東北被災地スタツア、起震車体験、3.11募金）、夕張まちづくりボランティアについて、今後の予定
第8回	12月24日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（ボランティア総合講座第6回の実施報告、冬ボラWEEKの実施報告、法政大学女子高校との古着回収の実施報告）、チームオレンジ現況報告（起震車体験の実施報告、スタツア実施の進捗状況、3.11募金）、アカデミー合唱団による地域貢献ボランティア、新規企画について、今後の予定
第9回	1月21日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（代表の交代、ボランティア総合講座第7回実施報告、春のボランティアWEEKについて、古着回収実施報告）、チームオレンジ現況報告（スタディツアー進捗状況、現地視察、3.11募金について）、その他（手話狂言講座実施報告、新規企画（伊藤先生）、まちのわイベント、夕張まちづくりボランティアツアーの停止について、今後の予定
第10回	3月17日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（新入生の勧誘について、春のボランティアWEEKについて）、チームオレンジ現況報告（3/1～3/4スタディツアー報告、3.11募金実施報告、新入生の勧誘について）その他（まちのわイベントについて）、今後の予定

### 【付記】

- 市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。
- ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成）に照らし合わせて判断。

## 第2章 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

### 1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

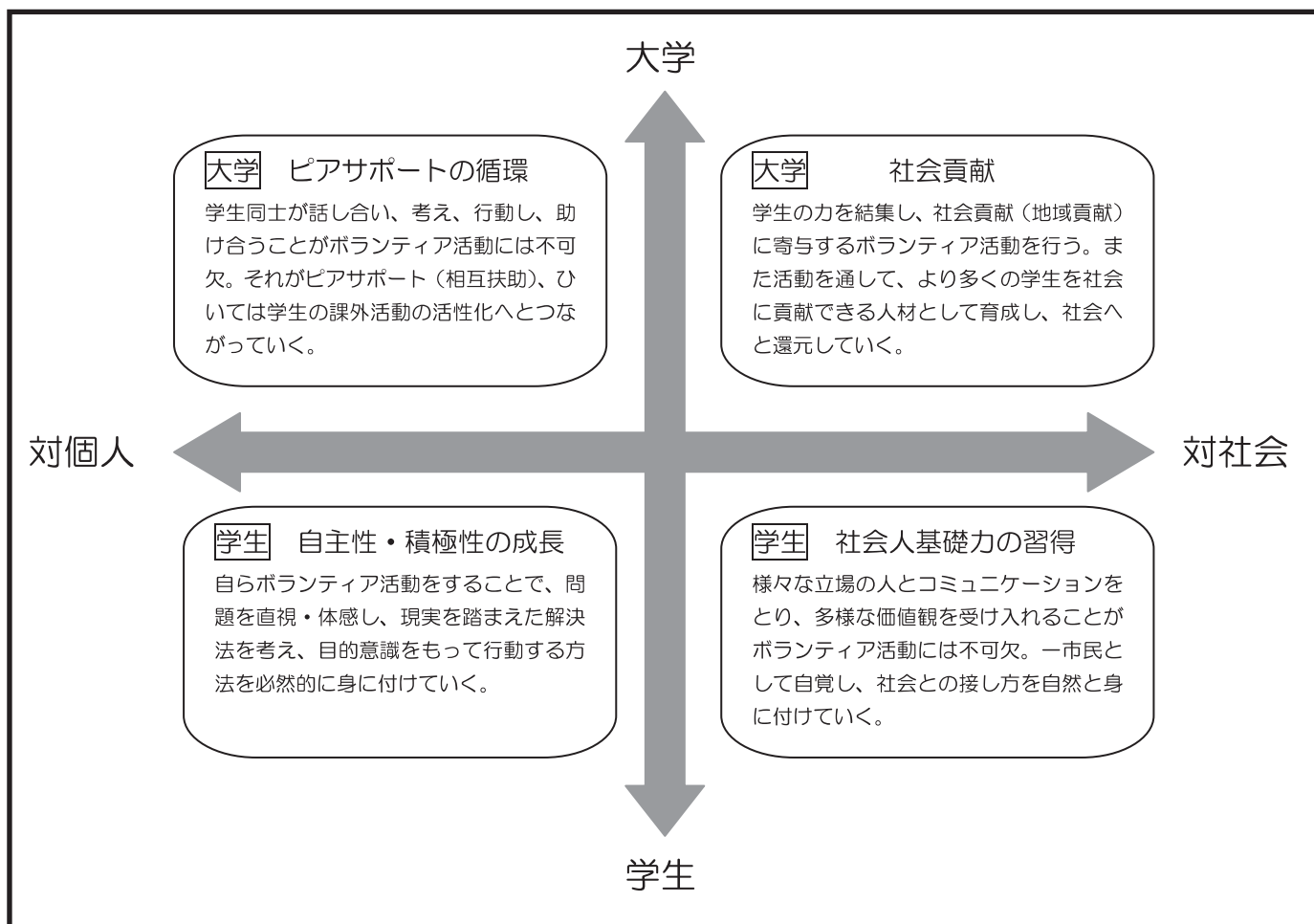
■活動目標（2015年度）：

【市ヶ谷ボランティアセンター】

- ①東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の支援
- ②既存プロジェクトの活性化
- ③地域貢献ボランティアの開発、発展
- ④ボランティアセンター学生スタッフの活性化
- ⑤学部生のボランティア促進を目的とした講座の実施、情報発信

【学生スタッフ】

- 学生スタッフが主催するイベント・活動を通し、ピアサポートを念頭に置きながら、ボランティア活動の「きっかけ」や学生生活の「充実」を広く一般学生に対して提供する。
- 自ら進んでボランティア活動を行い、地域貢献をすることで、経験を積み、視野を広げることを目指す。



## 2. 2015 年度活動の特徴

市ヶ谷ボランティアセンターでは、前出の「活動目標」を達成するために日々活動を行った。

### ①東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の支援

- 学内で可能な被災地・被災者サポート活動の活性化や震災関係啓蒙イベントの実施。  
→「チーム・オレンジ」学生スタッフが、学内の防災訓練で講師となり、教職員に救命処置講習を実施した。3月11日には、附属校3校と合同で飯田橋・市ヶ谷駅前での募金活動を実施。また、学食と「チーム・オレンジ」学生スタッフのコラボ企画として、「お昼ご飯、東北へ出掛けませんか？」と銘打ち、週替わりで東北3県にちなんだメニューを提供した。東北物産展を学内で開催し、利益を岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付した。
- 「チーム・オレンジ」学生スタッフが、岩手・宮城被災地スタディーツアーを実施。  
→2015年度より2時間程度の被災者との交流会をプログラムに取り入れ、一般学生の被災地に対する認識がより深まった。また、宮古市・田老町に初めて訪れ、ちくわ作り体験や、防潮堤の見学を実施した。3泊4日の行程で、往路は夜行バス、復路は新幹線利用とした。現地では貸切バスにて移動し、岩手県・宮城県を訪問の対象とし、被災地の現状について学ぶことができた。
- 「チーム・オレンジ」学生スタッフが、福島被災地スタディーツアーを実施。  
→訪問先の檜葉町では、特定営利活動法人のハッピーロードネットの方から、復興の歩みについてお話を頂き、その後Jヴィレッジを見学した。いわき・ら・ら・ミュウでは、震災の展示を見て放射能や、福島の震災の被害について学べた。日帰りで実施したため、参加の敷居を下げる事が出来た。
- 遠野被災地支援ボランティア（23～26次隊）を実施した。  
→今年度より、現地NPO法人与「チーム・オレンジ」学生スタッフが連携し、プログラムの内容を検討した。プログラムの内容を検討するにあたり、「チーオレ新聞」を作成し被災者の方々に配布し、取材を実施した。「チーム・オレンジ」スタッフを中心となり48名の学生が被災地でボランティアを実施することが出来た。

### ②既存プロジェクトの活性化

- 「北海道夕張まちづくりボランティア」の2015年度新規プログラムの開発、現地交渉、実施準備、引率。  
→今年度は、障がい者スポーツの普及に取り組む夕張のNPO法人「あ・りーさだ」が開催した障がい者スポーツの体験競技会「あだリンピック」の手伝いをした。4歳～16歳の障がい児やきょうだい、保護者ら計30名とイベントを通じて、交流ができ、充実した活動になった。夕張の歴史と現状を知るということで、石炭博物館や夕張シューパロダム、新しい市営住宅等の市内見学を実施した。
- 「富士山外来植物駆除ボランティア」「富士山清掃ボランティア」の実施。  
→富士山清掃ボランティア、富士山外来植物駆除ボランティアは、申込者が定員まで達し好調であった。関西大学ボランティアセンター学生スタッフと合同で実施した。

### ③地域貢献ボランティアの開発、発展

- 児童施設・富士見わんぱくひろばでの定期的なボランティアの実施。

→富士見わんぱく広場で開催されるイベントの手伝いを2回おこない、参加学生が地域の子供支援をすることが出来た。またマジシャンズクラブや児童文化研究会と連携し実施することができた。

- キャンパス周辺清掃ボランティアおよび富士見地区・九段地区町内会清掃ボランティアの継続、拡大

→参加者数は伸び悩んだが、計画通り定期的に行うことができた。

- 市谷小こどもひろばでのボランティアの実施

→今年度から6月と12月に「VSP」学生スタッフが児童文化研究会とIVUSAと連携しバルーンアートやマジック、大きな絵本などを披露した。

- 「まちのわ」イベントを飯田橋グラン・ブルーム管理組合と共同実施。

→「まちのわ」イベントを飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと、2回実施した。

飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に開催された。本学の登録団体および学生スタッフと連携し本イベントを盛りあげることができた。法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来た。

### ④ボランティアセンター学生スタッフの活性化

- 課外教養プログラムとVSPの合同企画を実施。

→2団体の学生スタッフがコラボレーションして企画した「ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア」を実施した。

- 新たなプロジェクトの立ち上げ。

→2015年度は「チーム・オレンジ」学生スタッフが起震車・非常食体験、東北被災地物産展、「VSP」学生スタッフがエコキャップバスツアーなどを企画し、新規プログラムを実施することが出来た。

- ボランティアサークル活性化イベントやボランティアプログラム参加促進イベントの支援・実施サポート。

→ボランティアWEEKを3回実施。各ボランティアサークルに声をかけ、各ボランティアサークルの1年間の活動を展示。また、交流会で、各サークルの活動報告、活動やサークル運営における悩み・問題を共有した。

### ⑤学部生のボランティア促進を目的とした講座の実施、情報発信

- ボランティア総合講座（2015年度は全7回）の企画・準備・実施。スキルアップ系講座（ファシリテーション入門講座）の実施。

→目標通りに実施できた。



## 2015年度 市ヶ谷ボランティアセンター イベントカレンダー

月 日	曜 日	イベント・講座・訪問先
4月13日～4月17日	月～金	春のボランティアWEEK
4月20日 他	月1回	九段・靖国周辺地区清掃ボランティア
4月20日 他	月1回	キャンパス周辺清掃ボランティア
5月5日	火	富士見わんぱくひろば「こどもの日まつり」ボランティア
5月14日	木	ボランティア総合講座第1回
5月17日	日	富士山外来植物駆除ボランティアツアー～関西大学と合同実施～
5月21日	木	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア 事前研修会
5月25日	月	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア ～皇居散策編～
5月26日	火	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア ～神楽坂ツアー編～
6月9日	火	ボランティア総合講座第2回
6月14日	日	千代田防災プロジェクト
6月20日・27日・7月4日	土	災害救援ボランティア講座(全3回)
6月20日	土	エコキャップリサイクル工場見学ツアー
6月29日	月	ボランティアセンター学生スタッフ (VSP) がコーディネートする地域貢献ボランティア ～市谷小こども広場編～
7月1日～7月7日	水～火	七夕フェスタ
7月6日～7月10日	月～金	夏のボランティアWEEK
7月8日	水	ボランティア総合講座第3回
7月14日・15日	火・水	被災地の物産品をしよう！「東北物産展」
8月21日	金	遠野被災地支援ボランティア事前説明会
8月25日(火)～9月4日(金)	一	遠野被災地支援ボランティア(23～26次隊)
9月5日	土	まちのわ防災Festa
9月7日	月	夕張まちづくりボランティアツアー事前研修会
9月10日～9月12日	木～土	夕張まちづくりボランティアツアー
9月12日～9月13日	土～日	住友商事ユースチャレンジフォーラム中間発表
9月16日 他	水	エコキャップ回収ボランティア(毎月1～2回)
9月18日	金	遠野被災地支援ボランティア報告会
9月20日	日	法政フェア(東北物産展)
10月8日他 全9回	木	手話講座(入門編)
10月24日	土	富士見わんぱくひろばボランティア「わんぱくこどもまつり」
10月24日	土	ボランティアセンター学生スタッフ (VSP) がコーディネートする地域貢献ボランティア～わんぱくこどもまつり2015～
10月25日	日	富士山清掃ボランティアツアー
10月26日	月	ボランティア総合講座第4回
11月16日～12月4日	月～金	「お昼ごはん東北へ出かけませんか？」～東北復興支援メニュー～
11月21日	土	フアシリテーション入門講座

概 要	参加者数
学内ボランティアサークルの新生勧誘(活動紹介展示&説会)	55
地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動(雨天時は中止になる。)	—
学生・教職員と共にキャンパス周辺の清掃活動(雨天は中止になる。)	—
「こどもの日」をテーマにしたイベント。ゲームコーナーや受付を担当	3
今、ボランティア活動がなぜ求められているのか～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～	6
富士山麓西湖湖岸生息する外来植物の駆除ボランティアを実施	40
ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座	12
ハンガリー剣道ナショナルチームと皇居を散策する	12
ハンガリー剣道ナショナルチームと神楽坂を散策する	10
「被災地の「今」を知る～沿岸被災地後方支援～」	16
明治大学主催の大学教育と地域の連鎖を目的としたプロジェクト	33
災害救援知識の向上、救援実施体験、防災館見学等	22
エコキャップリサイクル工場への見学	14
VSPが、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と連携し企画した子供向けボランティアプロジェクト	56
七夕顔出しエコキャップパネルの展示、VSP・チームオレンジ活動紹介	71
七夕顔出しエコキャップパネルの展示、VSP・チームオレンジ活動紹介	38
「盲導犬との「ふれあい」から学ぶ盲導犬の一生について」	21
チームオレンジが企画、東北の物産品を一般の人にも買っていただき、売上を寄付	196
遠野被災地ボランティア参加者への事前説明会	37
遠野をベースとした岩手県沿岸地域でのボランティア活動	48
サクラテラスでの「防災」をテーマにした地域貢献イベント	673
夕張まちづくりボランティアツアー事前説明	12
財政破綻の町夕張市を中心にしたボランティア活動	15
住友商事ユースチャレンジでのボランティア活動の発表(プレゼン)	2
外濠校舎中心の学内エコキャップ回収活動	3
遠野被災地支援ボランティアの事後報告会	35
大学の卒業生やその家族に向けたイベントでの東北被災地支援物産展	328
初心者向けの基本的な手話講座	110
富士見わんぱく広場の「ハロウィン」をテーマにしたイベントの実施補助	7
富士見わんぱく広場の「ハロウィンイベント」の手伝い	17
富士山での不法投棄されたゴミを清掃する活動	47
講師 田辺 凌鶴 が語る「夕張再生市長 鈴木直道」	26
東北の素材を使った学食メニューの企画	748
フアシリテーションの技術を実践を交えて学ぶ講座	14

講師、協力先	備考
学内9ボランティアサークル、VSP、チームオレンジ	VSP、チームオレンジ、各ボランティアサークルの新入生勧誘に大きな役割を果たす。また、企画・運営時において、ボランティアサークルの横のネットワーク構築にもつながる。
千代田区環境安全部、九段環境整備協議会	九段地区・富士見地区の町内会連合や、千代田区の方々と共に靖国通り沿いの地域パトロールを兼ねた清掃活動。
—	学生スタッフ（VSP）の定例活動の一つ。一般学生を募集し、VSP・ボラセン教職員と共に、市ヶ谷キャンパスの周辺を清掃活動。
富士見わんぱくひろば、VSP	市ヶ谷キャンパスから一番近い子ども施設・富士見わんぱくひろばで「こどもの日」をテーマにしたイベントの運営補助。
東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー 安藤雄太氏・VSP	ボランティア活動を振り返りながらこれからのボランティア活動を考えてみる講座。
NPO法人富士山クラブ、関西大学、VSP	NPO法人富士山クラブ指導のもと、環境問題や外来特定生物の種類・駆除活動の意義などについて学ぶ。
ハンガリー剣道ナショナルチーム、伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）、Hi-C Orange	ハンガリー剣道ナショナルチームの大学周辺の地域散策案内ボランティア。日本文化、歴史への関心や、情報を得ながら、学生が自主的に案内をしていくボランティアの事前語学研修。
ハンガリー剣道ナショナルチーム、伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）、Hi-C Orange	皇居周辺を散策しながら、ハンガリー剣道ナショナルチームに学生が自主的に案内をしていくボランティア。
ハンガリー剣道ナショナルチーム、伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）、Hi-C Orange	ハンガリー剣道ナショナルチームへの大学周辺の地域散策案内ボランティア。日本文化、歴史への関心や、情報を得ながら、学生が自主的に案内をしていくボランティア。
遠野山・里・暮らしネットワーク 田村隆雅氏・チームオレンジ	4年経過した被災地の現状と復興プロセスについて学ぶ。
チームオレンジ、CSV（千代田区社会福祉協議会）、SKV（専修大学）、Tree（明治大学）	大学間の交流を図りながら、千代田区の防災について考えていくプロジェクト。防災ツールづくり、非常食の美食、クロスロードなどを行った。
災害救援ボランティア推進委員会	災害と防災についての知識を習得し、実技を伴った講習を受ける。災害救援活動の実際の知識を、災害模擬体験なども体験。全日程出席の参加者にはセーフティリーダー認定証と上級救命技術認定証が付与される。
(株) 進栄化成さいたま工場、VSP	毎月行っているエコキャップ回収について、回収後資源にどのように活用されているのかを実際に見てエコキャップ回収ボランティアについて考える。
VSP、児童文化研究会、IVUSA、市谷小児童	地域貢献ボランティアの1つ。VSPが中心になり、児童文化研究会、IVUSAと協力して活動した。事前ミーティングなどから自主的に行った。
ピアネット、VSP、チームオレンジ	七夕にちなんだパネル展示と、日々の活動の告知、新会員募集。
VSP、チームオレンジ	日々の活動の告知、プレゼン、新会員募集。
日本盲導犬協会・VSP	盲導犬を実際に見ながら、補助犬についての法律や、一生を学び、盲導犬に対する理解を深めることを目的とした講座。
チームオレンジ、HU、法政大学一口坂校舎	商品のチョイスから金額交渉、スケジュール、納期などの管理から実際の運営までチームが主で行った。
チームオレンジ	遠野被災地ボランティアについての詳細説明会。
遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ	毎年恒例のボランティアセンター旗艦イベント。陸前高田市、大槌町などを中心に農業支援、漁港での補助作業、仮設住宅訪問などを行った。
飯田橋グランブルーム、東京消防庁、㈱ユニリビング、NPO国際ボランティア学生協会、IVUSA、荒川ゼミ、キャンエコ、知能ロボット研究室、VSP、チームオレンジ	最新レスキューロボット実演、LEDランタンづくり、デコレーションヘルメットづくり、防災クイズ、簡単防災グッズづくり、防災マップづくり、防災カルタなどの実演を行い、地域に密着した活動を行った。
VSP	夕張まちづくりボランティアツアー事前詳細説明。
NPO法人あ・りーさだ、夕張リゾート㈱、夕張市役所、VSP	炭鉱坑口跡の整備、障害児のスポーツイベントの運営など。
住友商事㈱、NPO法人市民社会創造ファンド、チームオレンジ	遠野被災地支援ボランティアの活動発表、プレゼン。
VSP	学内のエコキャップの回収ボランティア。
チームオレンジ	遠野被災地支援ボランティアの事後報告会
HU、チームオレンジ 他	東北グッズ、食品などの販売を行った。
中野佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）	手話ゲームブック「だれかにあったら こんにちは」を使用した講座。全9回。
富士見わんぱくひろば・VSP	バレード、工作コーナー、お店やさん、フェイスペインティングなどハロウィンのイベント補助。
富士見わんぱくひろば・マジシャンズクラブ・児童文化研究会	バレード、工作コーナー、お店やさん、フェイスペインティングなどハロウィンのイベント補助。
富士山クラブ・VSP	関西大学との合同清掃ボランティアツアー。
講師 田辺凌鶴氏・VSP	夕張市長「鈴木直道氏」について、また夕張市での活躍をわかりやすく楽しく語る講義を聴く。
チームオレンジ	11月16日（月）～20日（金）「ソースかつ丼（福島県）」、23日（月）～27日（金）「じゃじゃ麺（岩手県）」、30日（月）～12月4日（金）「鮭いくら丼（宮城県）」の展開。
鈴木まり子氏・学生アシスタント（希望者）	ミーティング、会議における技法としてのファシリテーションを学ぶ。

月 日	曜 日	イベント・講座・訪問先
11月24日	火	DIALOG IN THE DARK
11月29日	日	福島スタディツアー
12月1日	火	ボランティア総合講座第5回
12月3日	木	盲ろう者について学ぼう
12月8日	火	学生スタッフが教職員に教える応急救命講座
12月14日～12月18日	月～金	冬のボランティアWEEK
12月14日～12月18日	月～金	おうちに余っている服どうしますか？（古着回収ボランティア）
12月14日	月	ボランティア学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小こどもひろば編～
12月18日	金	起震車・非常食体験～法政大学で地震を疑似体験してみませんか～
12月18日	金	ボランティア総合講座第6回 通学路に見るユニバーサルデザイン講座
12月20日	日	新宿区社会福祉協議会・グランダ哲学堂公園クリスマスイベントでの合唱ボランティア
1月14日	木	ボランティア総合講座第7回 ディスカッションから学ぶNPOへの就職
1月19日	火	手話狂言講座～プロの役者から学ぶ手話狂言の世界～
1月30日	土	手話狂言・初春の会 鑑賞教室
3月1日～3月4日	火～金	岩手・宮城 東北被災地スタディツアー
3月11日	金	3.11大学・付属校合同被災地支援募金活動
3月26日	土	飯田橋グラン・ブルーム「まちのわ」イベント

概 要	参加者数
暗闇体験プログラム	16
被災地支援ボランティアのための現地学習ツアー	37
今、私たちに必要とされている国際協力 ～古着回収ボランティアでみる難民支援～	22
実際に盲ろう者の方に来ていただき、講義をしていただく	20
教職員の防災訓練で、学生が応急救命の実技などを教える	54
ボランティアサークルの1年間の活動報告（展示）	60
古着回収ボランティア	—
市谷小こども広場で子供と遊ぶボランティア	34
起震車による地震体験、非常食の試食	52
身近なユニバーサルデザインについて学ぶ	13
施設での合唱演奏ボランティア	43
現役NPO職員に聞く実体験	9
手話狂言の役者に魅力や楽しみ方などを学ぶ	11
古典芸能としての「手話狂言」について学ぶ	15
被災地支援について現地で学ぶ	31
東日本大震災についての街頭募金活動	34
地域貢献ボランティア活動	862

講師、協力先	備考
ダイアログ・インザダーク ジャパン	暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障害者）のサポートのもと、様々なシーンを体験する。
チームオレンジ	チームオレンジ スタツア班による企画。日帰りバスツアー、アクアマリン福島、いわき・ら・ら・ミュウなどの見学、被災地支援について学ぶ。
幸あかり氏（(株)ファーストリテイリング）・VSP	(株)ファーストリテイリング社員の方に難民支援の古着回収ボランティアについて講義をしてもらう。
森敦士さん（ルーテル学院院大学生）・中野佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）	同世代の盲ろう者が実際に感じたこと、体験などを語る。
チームオレンジ	チーム・オレンジが講師となり、教職員に救命処置講習を実施し各グループの実技指導なども行う。
ボランティアサークル・VSP・チームオレンジ	ボランティア活動の様子の掲示。
(株)ファーストリテイリング・VSP	古着回収ボランティアを学内で行う。
市谷小こども広場・VSP	市谷小こどもの広場で、ゲームをしたり、紙芝居などを行う。
千代田区・チームオレンジ	千代田区から地震車を借りて地震の疑似体験をし、非常食の試食で被災時に備える。
中野佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）・VSP	VSP企画、身近なユニバーサルデザインについて知識を深める。
新宿区社会福祉協議会・グラダ哲学堂公園・アカデミー合唱団	新宿区社会福祉協議会からの依頼。
杉原志保氏（協働ステーション中央責任者）・笠原孝弘氏（協働ステーションコンサルタント）・油井和徳氏（認定特定非営利活動法人 山友会理事）	ボランティア団体にもあるNPO法人について組織や実際の業務内容などについて学ぶ。
五十嵐由美子氏（日本ろう者劇団）・中野 佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）	手話と狂言の基礎知識や当日の演目の解説、通常の狂言と手話狂言の違いについての講義。
国立能楽堂	聞こえる人も聞こえない人も楽しめる手話狂言を国立能楽堂に行き鑑賞し、知識を深める。
福祉の里センター・リアスアーク美術館・ピシターセンター・生協プレイガイド・チームオレンジ	震災後5年の岩手・宮城の現状について、ボランティア活動について学ぶ。
法政大女子高・法政大中高・チームオレンジ	法政大学・高校が協力して募金活動を行った。募金金額合計377,562円。岩手県・宮城県・福島県が設置する復興支援義援金に3等分し全額寄付。
飯田橋グランブルーム・(株)KADOKAWA・東京・春・音楽祭・児童文化研究会・茶道研究会・GRANDS・I V U S A・三曲会・I I 都美術研究会・落語研究会	地域貢献ボランティアの一環として毎年参加。2015年度は企業とのコラボなど新たな側面も見られた。

# 1. 住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 助成決定証書授与式(チームオレンジ)

**日時**：2015年 4月 4日(土) 13:00～

**場所**：住友商事株式会社

**概要**：

## 1. 内容

4月4日(土) 13時より住友商事株式会社において「住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム助成決定証書授与式」が行われ、法政大学市ヶ谷ボランティアセンターチーム・オレンジの学生スタッフが参加しました。チーム・オレンジの被災地支援の取り組みが評価され、住友商事に50万円を助成していただくことになりました。

また、助成決定証書授与式の後は、他の助成決定団体とのグループワーク、懇親会が行われ、他団体とも交流を深めることができました。

本助成は、東日本大震災の被災地の地域再生と被災者の生活再建を願い、その再生過程に参加するユースを応援し、東日本の再生過程にユースが主体的かつ継続的に関わることで、多くのことを学び、経験し、地域や社会のさらなる発展の担い手として成長することを目的としています。

市ヶ谷ボランティアセンターチーム・オレンジでは、8月下旬に、助成事業である東北被災地支援ボランティアを実施し、今後も変わらず被災支援を行い、社会貢献活動をしていきます。

## 2. 参加人数

1名





## 2. 春のボランティアWEEK

**日時：**【展示・冊子配布】2015年4月13日（月）～17日（金） 終日  
【説明会】2015年4月15日（水）～4月17日（金） 13時～13時30分

**場所：**【展示・冊子配布】外濠校舎1階 メディアラウンジ  
【説明会】外濠校舎5階 523～526

### 概要：

#### 1. 内容

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。  
ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボラセン所属学生団体を紹介することで、新メンバーを求める各サークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対して支援しました。ボラセンの認知度アップとVSPの新メンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげるものです。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生への相談に応える姿が見られました。

学生主体によるSNSでの宣伝や説明会前のビラ配りを行い、イベントの認知度が高まり、説明会会場をメディアラウンジにしたことで集客の効果がありました。

また、その時にサークル紹介冊子を作り配布したことで、ボランティア団体を知ってもらういい機会になりました。説明会では、一般の学部生に各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、学生スタッフ自身も他団体について理解を深めることが出来ました。

#### 2. 参加者数

説明会：55名

#### 3. 背景・目的

- ・学内のボランティアサークルの活性化。新入生の勧誘。
- ・ボランティアサークル同士の交流。
- ・学部生へのボランティアサークル、ボランティアセンター所属団体の認知。



# 3. キャンパス周辺清掃ボランティア

**日時**：2015年4月～2016年3月

**場所**：市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

**概要**：

## 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。

基本的に月1回、VSPのメンバーが日程を決めています。毎回30分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行いました。詳細な活動日と参加者数は、下表参照。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の1つであり、一般学生を募集し、一緒に活動しながらボランティア活動の促進につなげていきます。

## 2. 参加者数

のべ85名 ※8月は休み

日程	参加者数（申込者数）
4月20日（月）	雨天中止（5名）
5月20日（水）	20名（17名）
6月10日（水）	11名（8名）
7月7日（火）	8名（5名）
9月30日（木）	9名（6名）
10月13日（火）	9名（7名）
11月24日（火）	10名（9名）
12月17日（木）	7名（5名）
1月13日（水）	6名（3名）
2月18日（木）	5名（5名）

## 3. 背景・目的

- ・学内のボランティアサークルの活性化。
- ・ボランティアサークル同士の交流。
- ・一般学生のボランティア活動への誘導。



市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催  
**地域清掃ボランティア**  
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。  
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽にできるボランティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

◆キャンパス周辺清掃◆  
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル飲料をプレゼント!

×九段・靖国地区清掃×  
 地域の町内会の方、千代田区の職員のみなさんと一緒に、地盤/イトロールを兼ねた清掃活動を行います。（毎月20日の前後）

**5月20日（水）**  
 12：45～13：25

**5月20日（水）**  
 15：30～17：00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターでお申込みください。

お申込・お問合せ  
 市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター隣）  
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】ichiyaya-vo@hosei.ac.jp  
 【開室】月～金（祝日除く） 9：00～19：00



# 4. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

**日時**：2015年4月～2016年3月

**場所**：九段さくら館→靖国通り→市ヶ谷駅周辺→九段商店街→九段さくら館

**概要**：

## 1. 内容

毎月20日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会(九段地区の町内会連合)、麹町署の方々、九段商店街の方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。地域貢献ボランティアとしての活動の1つになっています。

## 2. 参加者数

のべ46名

日時		参加者数(申込者数)	
4月20日(月)	15:30 -17:00	雨天中止(3名)	
5月20日(水)		13名(10名)	
6月19日(金)		雨天中止(2名)	
9月18日(金)		雨天中止(4名)	
10月20日(火)		4名(2名)	
11月20日(金)		6名(4名)	
12月18日(金)		15:00 -16:30	3名(2名)
1月20日(水)			4名(2名)
2月19日(金)			3名(3名)
3月18日(金)			お休み

※7、8月はお休み。雨天等の場合は中止。

## 3. 背景・目的

- ・清掃ボランティアを通し、環境問題やまちづくりに興味をもってもらう。
- ・地域貢献ボランティアとしての活動。





# 5. 富士見わんぱくひろば「こどもの日まつり」ボランティア

**日時：**2015年5月5日（月・祝）

**場所：**富士見わんぱくひろば

**概要：**

## 1. 内容

市ヶ谷キャンパスより一番近い児童館、  
「富士見わんぱくひろば」にてイベント運営のボランティア  
に参加しました。

この体験ボランティアに定期的に参加し、リーダー格となる  
学生もでてきており、先方からも期待され定期的に要望が  
あります。

5月5日は、手作り工作「紙飛行機とぼし」卓球大会などを実  
施しました。

## 2. 参加者数

3名

## 3. 背景・目的

- ・異世代との交流（子ども）を通じた「ボランティア」の実践。
- ・地域の一員としての自覚を持ちながら、地域貢献活動をする。

富士見わんぱくひろば  
「こどもの日まつり」ボランティア募集

大学から一番近い児童館「富士見  
わんぱくひろば」で5月5日に行  
われる「こどもの日まつり」にボ  
ランティアスタッフとして参加し  
てみませんか？  
子どもとかわる活動をご希望の  
方、ご参加をお待ちして  
おります！

【こどもの日まつり ボランティア募集】

日 時：5月5日（祝） 9：00～17：00頃まで  
場 所：富士見わんぱくひろば（法政大学より徒歩10分程度）  
活動内容：子どもとふれあいながら、イベントの実施補助を行います。  
募集対象：本学学部生  
募集人数：10名程度  
参加費：300円（申込時支払）  
※ボランティア保険に加入します。  
申込方法：市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入。

備 考：●活動風景を写真に撮ることがあります。予めご了承ください。  
●動きやすい服装で来てください。  
\*申込締切：4月28日（祝）17：00まで

市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター隣）  
【電 話】03-3264-9516 【e-mail】ichizawa-vc@hosei.ac.jp  
【開館日】月～金（祝日除く） 【開館時間】9：00～17：00



紙飛行機を飛ばす



紙飛行機を作る

# 6. ボランティア総合講座第1回

今、ボランティア活動がなぜ求められているのか

～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～

日時：2015年5月14日 16:50～18:20

場所：外濠校舎5階 523～526

概要：

1. 講師 東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー  
安藤 雄太 氏

## 2. 内容

ボランティア活動に関わっている外部団体の方や大学教員を招き、様々な分野のボランティアについて「ボランティア総合講座」を年に数回行っています。

第1回目は、「今、ボランティア活動がなぜ求められているのか～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～」をテーマに、東京ボランティア・市民活動センターアドバイザーの安藤雄太氏にお話しいただきました。

東日本大震災などでは多くのボランティアが活躍しましたが、これまでのボランティア活動について、また、根本になるボランティアの考え方、地域社会の変化やボランティアの歴史など、実際の活動を振り返りながら学びました。

## 3. 参加者数

6名

## 4. 背景・目的

- ・学内のボランティア活動に対する意識向上。
- ・さまざまな角度からのボランティアを学ぶ。

<講義風景>



法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催  
ボランティア総合講座(第1回)  
「今、ボランティア活動がなぜ求められているのか  
～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～」

東日本大震災では多くのボランティアが活躍したが、これまでのボランティア活動はどうだったのか。震災後の社会が大混乱を起している中で、市民が生活のために立ち上がり、相互に支え合う活動が生まれていく。今日は、生活、福祉、環境、文化など様々な領域で活動と工夫を凝らしながらよりよい地域社会を創っていく。ボランティア活動を振り返りながらこれからのボランティア活動を考えてみる。

5月14日(木)  
16:50～18:20 (5回)  
外濠校舎5階-526 合同教室  
講師:安藤 雄太氏  
(法政大学市ヶ谷ボランティアセンターアドバイザー / 副センター長(ボランティア部))

【申込方法】市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入  
【お問合せ】市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)  
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp



# 7. 富士山外来植物駆除ボランティア

**日時**：2015年5月17日（日）日帰り

**場所**：西湖湖畔、NPO法人 富士山クラブ「もりの学校」（山梨県南都留郡富士河口湖町）

**概要**：

## 1. 内容

5月17日（日）、今年度は関西大学と合同で、「NPO法人・富士山クラブ」のご指導のもと、『富士山外来植物駆除ボランティア』を実施。

「外来植物駆除」の活動は今年で3度目となり、参加者は、学生、教職員併せて40名でした。

バスの中では、一人で参加の学生も楽しく活動できるようにと、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画したレクを行い、大変盛り上りました。

また今回から参加いただいた、関西大学ボランティアセンター学生スタッフからは、関大で実施しているボランティア活動について紹介があり「淀川清掃」では、例年100名以上の参加があることが報告され、法政の参加学生にとってよい刺激になったと思われました。

現地ではまず、雄大な富士山の姿を間近に望むことのできる、NPO法人・富士山クラブの本部「もりの学校」にて、富士山クラブスタッフによるオリエンテーションを受け、富士山をとりまく環境問題や、外来特定生物の種類・駆除活動の意義などについて学びました。

その後、「オオキンケイギク」などの外来種駆除活動を行いました。参加学生からは「もっとやりたかった」との声も聞かれ、心地よい気候の中での約2時間の活動をし、大量の外来種を駆除することができました。

活動後、再び「もりの学校」に戻り、各班にわかれ、関西大学の学生と法政大学の学生で情報共有、振り返りを行い、外来種駆除を広めるアイデアを発表するなど、充実した活動となりました。

今後も関西大学ボランティアセンターと法政大学ボランティアセンターは協力して富士山の外来種駆除・清掃活動を継続的に行う予定です。

## 2. 参加者数

40名

## 3. 参加学生（企画スタッフ）の感想

○毎年行われているのに、これだけの数が生えているということは、やはりこれからも継続していく必要があると思うし、今回のようなボランティア活動が大切だという事がわかりました。このようなボランティア活動と、交流活動を組み合わせた形は、とてもやりやすかったです。

関西大学ボランティアセンター 法政大学ボランティアセンター 協力：NPO法人富士山クラブ

【お申し込み・お問い合わせ】

市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	三軒がキャンパス
ボランティアセンター 03-3264-9516	多摩学生生活部 042-763-2151	ボランティアセンター 042-763-2071
		学生生活部 042-387-6041

○生態系や生物多様性の保護に携わる仕事に将来は就きたいと思っており、そのために問題が起きている現場に向き、活動に参加したいと思って参加しました。事前に講義を受けることもでき、外来種や他の環境問題の現状を学ぶ事ができました。期待していた以上のものを得られました。帰る際にも刈りきれない草を見かけて、心残りでした。また参加したいです。

○ただ学ぶだけでなく、実際に目で見て、行動をとる事の大切さを改めて感じた。植物は密集して多く生えているので、根気良く抜くのは大変だったが、適度な休憩もあり、やりがいを感じる事ができた。新しい世界に踏み入ってみたいという思いもあり、あえて友達を誘わずに参加してみたので、本当に多くの人と交流する事ができ、視野を広げる1つの要因ともなった。また参加したい。

#### 4. 背景・目的

- ・ボランティア初心者学生の、ボランティア活動促進。
- ・ボランティア作業を通し、環境に対する意識やボランティア精神を養うこと。
- ・自然体験を通して、日ごろの生活に対する感謝の気持ちを涵養させること。
- ・他大学のボランティアセンターとの交流（情報交換等含む）の場。

#### <もりの学校・駆除活動風景>







## 8. ハンガリー剣道ナショナルチームと キャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア

**日 時**：2015年5月21日（木）研修  
（ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編）  
5月25日（月）皇居散策編  
5月26日（火）神楽坂ツアー編

**場 所**：皇居周辺・神楽坂周辺

**概 要**：

### 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、5月21日（木）、5月25日（月）、5月26日（火）の3日間、「ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア」を実施しました。

2015年5月29日（金）から開催される第16回世界剣道選手権大会に参加するため、ハンガリー剣道ナショナルチーム7名が来日。本学学生が、ハンガリー剣道ナショナルチームと交流し、本学学生に、異文化交流の重要性にきづいてもらうため、本プログラムを企画しました。

本プログラムは、「ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編」、「皇居散策編」、「神楽坂ツアー編」の3編から構成されています。

### 2. 参加者数

5月21日（木） 12名 : ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編  
5月25日（月） 12名 : 皇居散策編  
5月26日（火） 10名 : 神楽坂ツアー編

#### ● 「ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編」

本学のハンガリー出身の交換留学生が、「皇居散策編」、「神楽坂ツアー編」に参加する際のコミュニケーションツールとして、ハンガリー語を参加学生に教えました。ハンガリー語の発音は難しく、最初は苦労しているようだったが、参加者全員が簡単な挨拶を覚えることができました。また本プログラムのアドバイザーである伊藤マモル教授から、本プログラムの経緯、なぜ自身がハンガリー剣道ナショナルチームのトレーナーになったのか、ハンガリーの文化等について講義をしていただき、プログラムの導入となりました。

#### ● 「皇居散策編」

ボランティアセンターに集合し、飯田橋駅から地下鉄に乗り、桜田門駅で下車し、皇居外苑を散策。初めのうち、参加学生とハンガリー剣道ナショナルチームのメンバーは、上手くコミュニケーションをとれなかつ

国際交流！気軽に英会話をしたい人チャンスです！

ハンガリー剣道ナショナルチームと  
キャンパス周辺を散歩する  
**文化交流ボランティア**

日時：2015年 5月25日(月)～  
5月27日(水) 3日間  
15:10～16:40

※スケジュールにより変更の日が発生する可能性あり、  
1日のみの参加も可能。

内 容：ハンガリー剣道ナショナルチームと、神楽坂、護国神社などの  
キャンパス周辺を散歩することで、文化交流をします。

集合場所・時間：市ヶ谷ボランティアセンター 15:00（各日）

アドバイザー：伊藤 マモル 法政大学法学部教授  
ハンガリー剣道ナショナルチームトレーナー

参加定員：本学部学生 各日 15名

参加条件：かんたんな日常英会話ができる程度の英会話力

事前研修：2015年5月21日(木) 16:50～18:20  
外環校舎526会議室

協力団体：課外教育プログラム学生スタッフ

●申込み方法 \*市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入  
●ご連絡・お問い合わせ \*詳細はボランティアセンターまで  
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター（外環校舎1階）  
TEL：03-3264-9516 メール：ichigaya-vc@hosei.ac.jp

たが様でしたが、皇居の二重橋や、楠木正成像を見学しているうちに次第に打ち解け、英語で会話し、文化交流することができました。

### ●「神楽坂ツアー編」

課外教養プログラム学生スタッフとボランティアセンター学生スタッフ（V S P）が協力し神楽坂ツアーを実施。事前に打ち合わせを重ね、図上でのルートの確認や、参加者に配布する英語の案内マニュアルを作成しました。

当日は、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、ハンガリー剣道ナショナルチームを神楽坂へスムーズに案内することができました。赤城神社では、参加学生が、絵馬の意味をハンガリー剣道ナショナルチームに教えたところ、内1名が絵馬に願いごとを書き、奉納するなどの一幕も見られ、日本の文化について理解していただけました。また本学の登録団体である Hi-C Orange の協力によって、英語の苦手な学生も活発な文化交流をすることができました。

本プログラムを中で、「日本の歴史や文化などを上手く説明できなくて、悔しかった。」などの意見もあり、参加学生は異文化交流するには、まず自国の歴史や文化を知ることが重要であること身をもって感じたようでした。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、異文化を理解し、交流することの重要性に気づいてもらうためこのようなプログラムを市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後も企画する予定です。

協力：伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（V S P）、Hi-C Orange

### 3. 背景・目的

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、学生に異文化を理解し、交流することの重要性に気づいてもらう。
- ・神楽坂や靖国神社などのキャンパスの周辺を本学学生と散歩することを通して、日本文化をハンガリーナショナルチームに理解していただく。







# 9. ボランティア総合講座第2回

## 被災地の「今」を知る～沿岸被災地後方支援～

**日時**：2015年6月9日（火）16：50～18：20

**場所**：外濠校舎5階 523～526

### 概要

1. **講師** NPO法人 遠野山・里・暮らしネットワーク 田村 隆雅 氏

### 2. 内容

ボランティア総合講座では、ボランティア活動に関わっている外部団体の方や大学教員を招き、様々な分野のボランティアを学びます。

東日本大震災から4年経過し、記憶の風化や誤認識が問題になっています。原発事故や、放射能については、メディアでも頻繁に報道されますが、被災地の現状に関する報道は明らかに少なくなっています。また「東北は既に復興し、もうボランティアの必要はないと思っていた。」などの率直な感想がありました。

そこで、4年経過した被災地の現状と、復興支援のプロセスを学ぶことによって、本学学生の記憶の風化を防ぐこと、被災地ボランティアへの参加を推進することを目的とし本講座を実施しました。

### 3. 参加者数

16名

### 4. 参加学生の感想

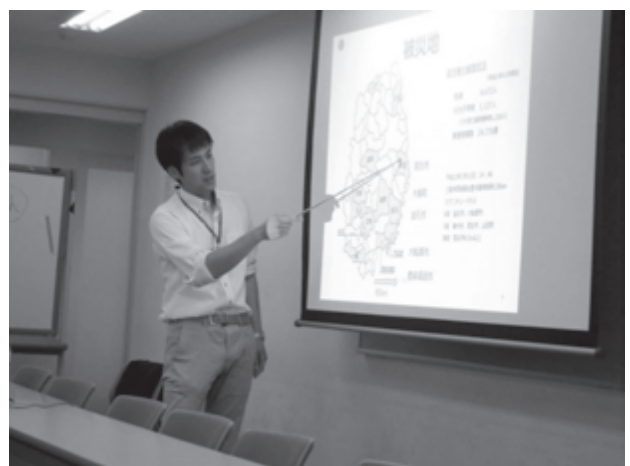
今回初めて東北で行われるボランティアについて、いろいろ聞くことができました。

私が中学生の時に大震災が起き、宮城に友達がいたこともあり、すぐに電話をしたり、手紙を出したりと、連絡を取ろうとしましたが、結局連絡がついたのは1ヶ月後でした。聞くとかなりの被害をうけ、避難所にいたそうです。震災で東北がどのような被害を受け、今どのようなことを求めているのか興味があり、自分で何かできることがないか考えていました。

この講演で、今被災地の方々が必要としていることは、ほんの些細なコミュニケーションであったり、私でもできることなんだと分かり、これから関わっていきたいと思いました。

### 5. 背景・目的

- ・被災地支援などに向けてのボランティア意識の向上。
- ・震災についての記憶の風化防止。



# 10. 第1回千代田防災プロジェクト（チームオレンジ・防災班）

**日時：**2015年 6月 14日（日）11：00～15：30

**場所：**明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1075 ・1076 教室

**概要：**

## 1. 内容

法政大学ボランティアスタッフ チームオレンジ（防災班）は、6月14日（日）11：00～17：00に地域の連携を目的とした「千代田防災プロジェクト」を他の学生団体と合同で企画しました。

このプロジェクトは、実際に地震が発生した際に、正しい行動をするためにはどうすべきか、また避難においてどのようなものが必要なのか等の防災に関する知識を共有し、千代田区で大型地震などが発生した際に、連携できる体制を構築するために合同で企画しているものです。

参加団体は、SKV（専修大学）、CSV（千代田区社会福祉協議会）、Tree（明治大学）、チームオレンジ（法政大学）の4団体。参加人数は33名でした。

=====

各団体の紹介（活動ボランティア、課題の発表）の後、アイスブレイクを行いました。

その後、「簡易トイレづくり」、「非常食の実食」をグループワークで行いました。

「簡易トイレづくり」は、避難所にいる想定で水道や電気を使わずに、限られた材料で制限時間は35分というシビアな設定で行いました。

「非常食の実食」は実際に販売されている非常食にはどのようなものがあるか、また、おいしいかどうかを参加者に体験してもらいました。

その後、「クロスロード」を行いました。災害時に起こりうることを問題に、Y/Nで答えもらい、なぜその解答にしたかを発表することで、自分とは違う気付きや、価値観を共有することができました。

## 2. 参加人数

33名

## 3. 参加学生の感想

- ・玉ねぎアレルギーを持っている参加者がいたので、避難食の素材にアレルギーがあるかどうかを事前に参加に聞いたほうがいいと思った。
- ・画全体の時間を見直し、アイスブレイク以外で他のグループとも交流できるものを用意する。
- ・非常食のレパートリーが少なかった。予算の可能な限り、次回より多くの種類を用意するように努める。

## 4. 次回への試み

- ・実践的な企画をしたい（ロールプレイング）。
- ・シェイクアウトをやりたい。
- ・救命講習をやりたい。
- ・防災マップをつくりたい（運営メンバーを増やす）。

## 5. 背景・目的

- ・大学間の交流・連携をはかりながら、地域貢献の防災を考えていく。
- ・災害に対する学生の自発的活動を育てる。



アイスブレイク時



発表風景



作業風景

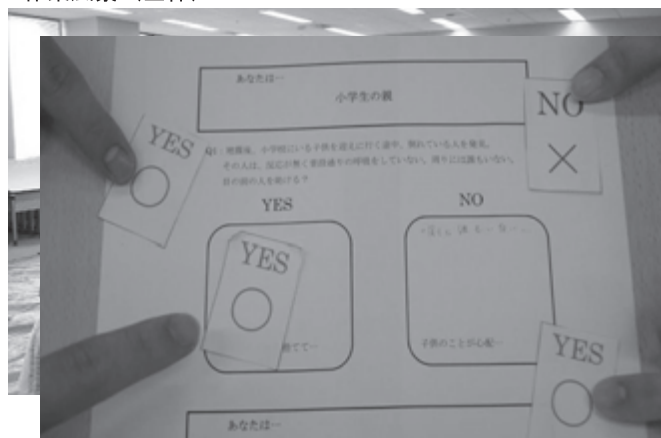


作業風景

グループ



作業風景（全体）



問題

# 11. 災害救援ボランティア講座（全3回）

**日時：**2015年6月20・27日・7月4日（土） 全日 9:00-17:00

**場所：**外濠校舎5階・526会議室、市ヶ谷総合体育館3階柔道場、本所防災館/富士見坂校舎3階F309教室

## 概要：

### 1. 講師

宮崎 賢哉氏（災害救援ボランティア推進委員会主任）、  
吉永 宏氏（元常磐大学大学院教授）、東京防災救急協会、  
元東京消防庁職員、千代田区ほか

### 2. 内容

◆第1日目<法政大学 市ヶ谷キャンパス外濠校舎 526 会議室>

災害と防災対策の基本を講義形式で学んだり、グループ  
ワークを実施。（出火防止と初期消火、災害時の決断力、災害と防災対策の基本について）

◆第2日目<市ヶ谷総合体育館3階 柔道場>

応急手当活動（上級救命技能講習）

◆第3日目<本所防災館 / 法政大学 富士見坂校舎3階F309 教室>

災害模擬体験（震度7の地震体験、煙や暴風を体験）と実技 <本所防災館>  
災害救援ボランティアの実際、災害時のリーダーシップと安全衛生、認定証授与 <法政大学>

### 3. 参加者数

1日目（6月20日）：22名

2日目（6月27日）：22名

3日目（7月4日）：20名

### 4. 背景・目的

- ・災害知識を増やし、災害時における緊急対応の習得をする
- ・ボランティア活動の推進。







# 12. エコキャップリサイクル工場見学ツアー

**日時**：2015年6月20日（土）

**場所**：株式会社進栄化成 さいたま工場

**概要**：

## 1. 内容

6月20日（土）、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画したエコキャップリサイクル工場見学ツアーを実施しました。

市ヶ谷キャンパスの学生は、キャンパス内のエコキャップ活動について関心が高く、2014年度は、約300kgのペットボトルキャップを回収しました。集められたペットボトルキャップが、どのような形で、再利用されているのかについて知るため、本プログラムを企画しました。

株式会社進栄化成、さいたま工場に到着後なぜペットボトルのキャップを再利用するのか、再利用したものがどのような製品になるのか、といったことについて講義を受けました。

その後ペットボトルのキャップのリサイクル工程（原材料の回収→選別→洗浄→混合→造粒→乾燥→計量）の一連の流れを見学でき、回収されたペットボトルのキャップが、どのように使われているか実際に確認することが出来き、大変有意義でした。

## 2. 参加人数

14名

## 3. 参加学生の感想

今回工場見学をしてみて、普段何気なく使っているペットボトルのリサイクルに様々な工夫がされていることを知り驚きました。

（デザイン工学部3年 男子）

キャップの種類が多さから起きる選別の問題をどう解決し、改善するかなどの興味深い話を聞いてよかったです。

（デザイン工学部3年 男子）

これからは、もっとキャップを回収ボックスに入れようと思います。

（法学部3年 女子）

エコキャップ  
リサイクル  
工場見学ツアー

いつも捨てている  
エコキャップ、もう1度見直  
して見ませんか？  
ボランティアセンター学生ス  
タッフ(VSP)が企画しました。

**6月20日(土)**

13:30~17:30

募集人数：25名 参加費：無料  
移動：貸切バス

エコキャップ活動で集められたペットボトルキャップが、どのような形で再利用されるのかについて工種を学び、エコキャップ活動に正しい認識をもつことを目的としています。

株式会社進栄化成さいたま工場を見学  
国内最大級ペットボトルキャップ選別システムを鑑賞

申し込みは6/12(金)まで!

【申込方法】 市ヶ谷ボランティアセンター  
⇒ 窓口にて申込書記入  
【お問合せ】 市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階)  
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

■スケジュール	
13:15	法政大南 (飯沼町校舎集合)
13:20	法政大南
14:20	株式会社進栄化成さい たま工場 <見学>
16:00	見学終了
17:30	法政大南南 (飯沼町校舎解散)



# 13. ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が コーディネートする地域貢献ボランティア

～市谷小子どもひろば編～

**日時：**2015年 6月 29日（月）11：00～15：30

**場所：**千代田区立市谷小 こどもひろば

**概要：**

## 1. 内容

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と連携し企画した子供向けボランティアプロジェクト。

事前に市谷小子どもひろばを訪問し、ニーズを聞き、ボランティアサークルの児童文化研究会、IVUSAに協力を要請しました。

当日は、児童文化研究会は巨大紙芝居、IVUSAはバルーンアート、ベーゴマやけん玉などの昔遊びを披露し、子供たちは、夢中になって参加しており、満足度の高いプログラムでした。

また、本プログラムに参加した学生たちからは、「自分たちの活動が地域貢献に繋がって、嬉しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していく予定です。

協力：市谷小子どもひろば、新宿区社会福祉協議会、児童文化研究会、IVUSA、  
ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）

## 2. 参加者数

56名

## 3. 背景・目的

- ・ボランティアスタッフが自主的に企画し、学内のチームに要請をし、協力しながらボランティア活動を行う。
- ・学童育のボランティアを通じ地域に貢献する。





# 14. セタフェスタ2015

**日時**：2015年7月1日（水）～7月7日（火）詳細は下記

**場所**：511 教室横の迂回通路

**概要**：ボランティアセンター学生スタッフ（VSP・チームオレンジ）の活動の紹介と、エコキャップ回収、東日本大震災の復興支援の告知

## 1. 内容

### ○VSP企画「セタ顔出しエコキャップパネル」

日時：7月1日（水）～7月7日（火）

顔を出せるエコキャップを貼り付けたパネルを配置し、記念撮影をしていただくように通行する人に呼びかけました。また、用意した短冊を笹につけてもらい、願いごとを書いてもらいながら、エコキャップ回収を含めた今までの活動などを写真等を使いわかりやすく紹介しました。

### ○チームオレンジ企画「東北被災地について知ろう！～チームオレンジ企画の宣伝～」

日時：7月1日（水）、2日（木）、3日（金）、6日（月）、7日（火） 12:40～13:20

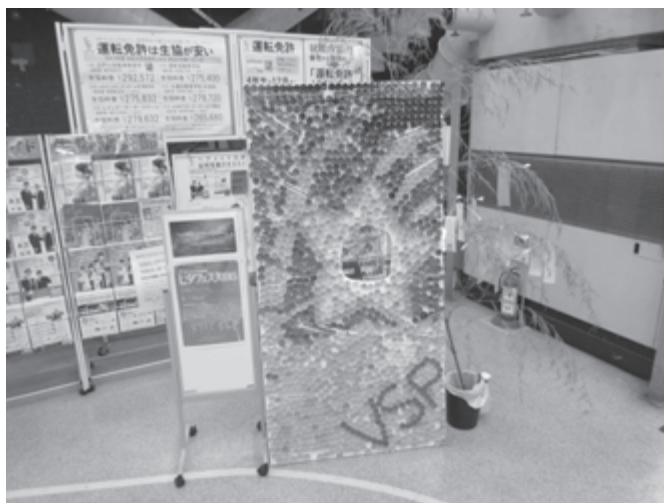
セタフェスタの期間に合わせ、活動報告の展示と、今後実施する「東北物産展」「東北復興支援プロジェクト」などのチームオレンジ主催企画の宣伝をしました。自主的参加を促すために、チームオレンジスタッフが通路に立ち、呼びかけをしたり、興味がある人には、実施した活動の説明なども積極的に行いました。

## 2. 参加人数

71名

## 3. 背景・目的

- ・ボランティアセンター学生スタッフの活動の周知
- ・ボランティア活動の推進。







# 15. 夏のボランティア WEEK

**日時：**【展示・冊子配布】2015年7月6日（月）～10日（金） 終日

【説明会】2015年7月9日（木）12：50～ 2015年7月6日（木）16：50～（VSP）

**場所：**【展示・冊子配布】外濠校舎1階 メディアラウンジ

【説明会】外濠校舎3階ギャラリー

## 概要：

### 1. 内容

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。

夏の七夕フェスタ（ボランティアセンター企画）の後、ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、ボラセン所属学生団体を紹介することで、活動の認知度向上を図ることを主旨にしています。VSP、チームオレンジのメンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげていきます。

外濠校舎3階ギャラリーでは、展示による活動報告や、パワーポイントを使用したボランティア活動の説明などを行いました。

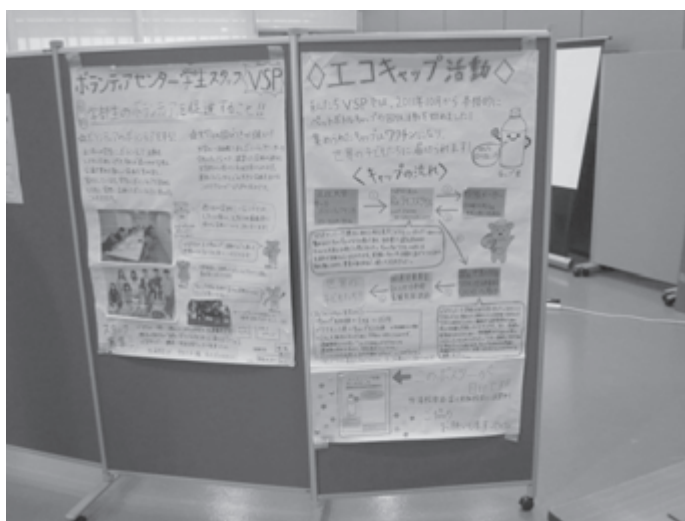
ボランティア団体スタッフだけの「ボランティア活動」は、なかなか一般学生の目に触れない点があります。このような機会を使いアピールを継続していく予定です。

### 2. 参加者数

38名

### 3. 背景・目的

- ・学内のボランティアサークルの活性化。
- ・ボランティアサークルの活動の認知。



# 16. ボランティア総合講座第3回

## 盲導犬との「ふれあい」から学ぶ盲導犬の一生について

日時：2015年 7月 8日（火） 16:50～18:20

場所：外濠校舎 5階 523～526

概要：

### 1. 内容

障がい者の社会進出と自立を促進するために、毎年多くの盲導犬が育成されています。その頭数が年々増加をしていく一方で、盲導犬を受け入れる社会自体の理解は十分とはいえないと思われます。お店や交通機関で利用を断られてしまうケースも多々見うけられます。

盲導犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生を学び、盲導犬に対する理解を深めることを目的として開催しました。

講座では、視覚障がい者の歩行を体験するために、学生がアイマスクを着用し、白杖を使用したり、盲導犬のサポートを受け、教室を歩きました。盲導犬が生まれてから、盲導犬をリタイアするまでの一生について、盲導犬のデモンストレーションも交えてお話しして頂き、視覚障がいに関する知識、盲導犬に対する理解を深めることが出来き、大変有意義な講義となりました。

協力：日本盲導犬協会、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）

ボランティア総合講座第3回  
盲導犬との「ふれあい」から学ぶ  
盲導犬の一生について

盲導犬が市ヶ谷キャンパスにきます！

7月8日(水) 16:50～18:20

市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 5階 526会議室 定員30名

途中でたまに見かける盲導犬についてみなさんご存知ですか？  
新しい知識を経て盲導犬になる犬たちについて、ちょっと考えてみませんか。  
盲導犬をはじめとする補助犬についての法律や一生について学び、盲導犬に対する理解を深めていきます。

実際の盲導犬によるデモ、介助歩行体験も行います。

【申込方法】市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入  
【問い合わせ】市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)  
Tel : 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

### 3. 参加者数

21名

### 4. 参加学生の感想

・視覚障がいの方、盲導犬のことを学ぶ機会はめったにないと思うので、参加できて嬉しかったです。犬のブラッシングを、飲食店に入るときなどを考え、迷惑をかけないようにやってらっしゃるというのを聞いてそこまで考えつかなかったので驚きました。

犬が盲導犬として生活していくのは、とても大変そうなイメージがありましたが、犬も家に帰れば普通の犬と同じように生活していると知って、よかったなと思いました。視覚障がいの方や盲導犬のことへの理解を深めたいし、理解が広がればいいと思いました。(経営学部 3年)

・視覚障がい者の方々皆全盲であるわけではない、ということは知っていたのですが、全盲の方より少しでも見える方のほうが生活は楽なのかと思っていました。しかし、今回実際に視覚障がい者の方の話聞いて認識を改めることができました。貴重な話を聞かせていただきありがとうございます。

(法学部 2年)

### 5. 背景・目的

- ・視覚障がい者に対する知識・ボランティアへの動機づけ。
- ・盲導犬に対する理解。



日本盲導犬協会の方々と盲導犬の紹介



アイマスクで歩くことを体験



白杖を使用して歩くことを体験



アイマスクを着け盲導犬と歩く



講師の方に質問



お疲れ様でした



# 17. 被災地の物産品を買おう！「東北物産展」

日時：2015年 7月14日（月）・7月15日（火）

場所：法政大学 一口坂校舎

概要：

## 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」主催で、7月14日（火）、7月15日（水）の2日間、被災地の物産品を買おう！「東北物産展」を実施しました。

東日本大震災の直後は、被災地での瓦礫撤去作業や写真洗浄などのボランティア活動が数多くありましたが、震災から4年が経ち、学生が取り組めるボランティア活動が少なくなってきました。そこで市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジでは、東京で行える復興支援活動の1つとして、東北のおいしい食べ物や工芸品を伝え、もっと東北に興味を持ってもらい、震災の風化を防ぐため「東北物産展」を一口坂校舎一階で株式会社エイチ・ユー協力のもと開催しました。今回は、チーム・オレンジの学生が岩手、宮城、福島の3県の商品をセレクトし、販売に至りました。



=====

- 「かもめの玉子」（岩手県）：さいとう製菓株式会社が製造している岩手県大船渡市の郷土菓子。
- 「さるなしドリンク」（岩手県）：キウイフルーツの原種である「さるなし」は、甘酸っぱさが特徴。
- 「大槌コースター」（岩手県）：2011年3月に東日本大震災により、被災された方々が自らの手で復興を目指し、作っている商品。
- 「ふかひれスープ」（宮城県）：気仙沼産のフカヒレ原料にこだわった人気のスープ。
- 「希望のかけ箸」（福島県）：東日本大震災で被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県の杉間伐材を使用した割り箸。

=====

チーム・オレンジの学生たちは、多くの人々に来てもらうために、宣伝ポスター、商品説明のポップ、チーム・オレンジの活動内容を記載した模造紙等の作成を行いました。また、当日は一口坂校舎の前で積極的な呼び込みや、氷で冷やしたさるなしドリンクで一口坂校舎に呼びこむなどの工夫をした結果、2日間で来客数は196名に達しました。また総売上額は、87,600円に達し、利益の13,088円はすべて、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付しました。

被災地の復興を支援するため、震災を風化させないためにも、市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのような取り組みを企画していきます。

## 2. 参加者数・成果

196名



総売上額：87,600円

寄付金額：13,088円（岩手、宮城、福島の義援金口座に全額寄付）

協力：株式会社エイチ・ユー

### 3. 企画学生の感想

今回は、美味しい食べ物や素晴らしい工芸品を知ってもらうことで、東北にもっと興味を持ってもらうために、物産展を開催しました。物産展に来ていただいた方には、多くの言葉をかけていただき、このような活動を通すことで、日常生活では薄れつつある東日本大震災の風化防止にも貢献できると確信することができました。

（経営学部 3年 角田航太）

現地の方とやり取りをしているうちに復興への様々な思いが感じ取られ、この思いを東京の人にも届けたいという気持ちで今回の物産展に臨みました。たくさんの方から励ましの言葉を頂き、中には東北出身の方もいらっしゃって、少しだけお話を伺うことも出来ました。大変な事もありましたが、人と人の繋がりを感じた物産展でした。また機会があればぜひ行いたいと思います。ご協力有難うございました！

（法学部 3年 安西玖美子）

2日間を通して沢山の方に寄っていただき、とても嬉しく思っています！そして楽しむことが出来ました！物産展を企画・運営し、難しさを感じましたが、取引先の方々や株式会社エイチ・ユーなどの協力により無事終わることが出来ました。周りの方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

震災から4年半がたちましたが、これからもこのような活動を継続することが大切だと思います。法政大学の学生に発信していきたいです。

（法学部 3年 栗井千智）

### 4. 背景・目的

- ・東日本大震災の被災者支援活動の風化防止。
- ・被災地の方々との交流。
- ・学生が自主的に企画から販売まで行う活動の実現。



# 18. 東北支援プロジェクト 遠野被災地自立支援ボランティア

**日時：**2015年 8月21日（金）事前説明会

8月25日（火）～8月29日（土）第23次隊 8月27日（木）～8月31日（月）第24次隊

8月29日（土）～9月2日（水）第25次隊 8月31日（月）～9月4日（金）第26次隊

9月18日（金）報告会

**場所：**岩手県遠野市、陸前高田市、大槌町、大船渡市

**概要：**

## 1. 内容

8月25日（火）～9月4日（金）、ボランティアセンターでは、岩手県遠野市をベースキャンプにし、陸前高田市、大槌町で通算23～26次隊となる「被災地自立支援ボランティア」を実施し、総勢48名の学生が参加しました。現地では、「遠野山・里・暮らしネット」のコーディネートの下、ネギ畑の整備、漁協でのわかめの出荷作業、しいたけ農家の補助作業、漁師さんの補助作業、復興住宅での交流会などの被災地自立支援を行いました。また研修を兼ね、被災地の見学会も実施しました。

現地に向かう前にはボランティアの心得や注意事項、現地の現状等についての事前研修を実施し、帰着後には報告会を開催し、各隊毎に活動発表を行い情報を共有しました。



また、今年度より、ボランティアセンター学生スタッフであるチーム・オレンジが、本プログラムを実施する前に、法政大学の被災地支援の取り組みを知ってもらうため、「チーオレ新聞」を作成し、ボランティアの受け入れ先に配布しました。新聞を渡す際にどのようなボランティアを実施するかを取材し、事前説明会の時に、参加学生にボランティア内容を伝えることによって、学生が想像しているボランティアと実際に行うボランティアとのギャップを埋めることが出来ました。

## 2. 参加者数

合計48名（23次隊：12名 24次隊：12名 25次隊：12名 26次隊：12名）

## 3. 参加者の感想

=====  
被災地に訪れたのは初めてで、震災から4年もの月日が経ちテレビなどでも取り上げられなくなってきた中、実際に見てみると、自分の思っていた以上に建物などは復興が進んでいたが、人々の心の傷はまだいえていない部分もあるのだと感じた。

中でも、情報館の昔の町の風景の展示に現地の人も多く来ていることから、やはり昔のことを思い出さずにはられないのだと思った。交流会では笑って話しているお年寄りの方も、時折悲しそうな顔をしているのを見て、まだ時間はかかるだろうと思った。交流会で言われたとおり、今を普通に生きていることがどれだけ大切かということをかみしめて生活していきたい。

今回のボランティアを通し、やはり現地を訪れことが大事だと感じた。年を重ねていけばできることも増えると思うので社会人になっても被災地を訪れたい。

（経営学部 1年 男子）

=====

私は今回初めて被災地に来ましたが、私が想像していた以上に被災地の方は笑顔でした。色々な活動や交流会等でふれあってみて、私たちのことを気にかけていたり、逆に心配してくださったり、とてもあたたかい方ばかりでした。でもやはり交流会でお話を聞いて傷は癒えてないと感じました。

それでも復興に向けて、前を向いて笑顔で頑張っている東北の方々を見て、その笑顔を守れるように、心から笑顔になれるように私にできることを継続してやっていきたいと思いました。後、ワカメ工場での活動を通して海にめちゃくちゃにされた東北だけれど、東北沿岸のこれからまた「海」が「売り」になっていくのだろうか、と個人的に感じました。時間がかかるとは思いますが、復興に向けて何か海を利用できたらいいのかもしれないと思いました。

(法学部 2年 女子)

=====

陸前高田に訪れて、復旧・復興がすこしずつではあるけれど着実に進んでいることがわかりました。しかし、仮設住宅で未だに暮らしている人が多くいたり、公営住宅に移ってもコミュニティの構築がまだなかなか作られていなかったりと、多くの人を知るべきことや支援がまだまだたくさん必要である、ということを知りました。

交流会を通じてお話をさせていただいた方に「仮設住宅に移った当初は、イベントのようなものも多く行われていたけれど、今はそんなにやらない。だから今日は来てくれて、こうして話すことができるととても嬉しい。」とおっしゃっていた方がいました。ボランティアという形に捉われずに、陸前高田を始めとした被災地に訪れて、現地の方とお話をするという事でも、復興支援の一部になるのではないかと、思いました。

復興はとても時間のかかること。だから、何年経っても被災に関することは伝えていかなければならないことで、風化させてはいけない。支援を止めるなんてことはおかしい。

私たちはボランティアを通じて見て聞いて知った事をまわりに伝え、いろいろな形での支援をこれからも続けていくべきだと思いました。

(文学部 3年 女子)

#### 4. 背景・目的

- ・東日本大震災の被災者支援活動の風化防止。
- ・被災地の方々との交流。
- ・学生が自主的に企画から販売まで行うプログラムの実現。



漁師さんの補助作業



ビニールハウスの整備





ネギ畑の整備



復興住宅での交流会



集合写真 23 次隊



集合写真 24 次隊



集合写真 25 次隊



集合写真 26 次隊



私達は、法政大学チームオレンジです!



# チーオレ新聞

2015年夏号

法政大学  
被災地支援部が中心  
チームオレンジ  
(略して「チーオレ」)

## 4コマ

## 自己紹介

こんにちは、チームオレンジのメンバーです。この新聞を通して、私達について皆さんにもっと知ってもらいたい。この新聞をつりました。

チームオレンジは、法政大学ボランティアセンターに所属する学生団体で、被災地のために私達が今できることは何かと自分たちから考え行動に移す元気な学生が中心の団体です。宜しくお願いします。

## 毎週みんなが集まっています!

私達は、毎週木曜日の昼休みの時間に、みんなが集まって会議を行っています。ここでは各企画の進捗状況やこれからの子どもの確認をします。また、月に2度、放課後にも会議があり、ここではグループに分かれて東北の現状を調べてみんなの前で発表する勉強会を行っています。東北について楽しく学ばせて

## Q&A

Q: チーオレは何々なの?  
A: 64人、145人です。

Q: チーオレは何々なの?  
A: 勉強会やボランティア活動など、東北支援に力を入れています。

チームオレンジのスタッフが自分たちの紹介新聞を手作りで作成。  
チームオレンジの活動の紹介、自分たちがどんな団体かなどを凝縮して新聞にしました。現地関係者や復興住宅などで紹介、配布し、チームオレンジの紹介やツールとして会話の導入などに役立てました。

←チーオレ新聞 (オモテ)

# もっと知りたい人のためのチーオレ紹介!

~幹部紹介~  
おはな、ふじ、あつた

~プロジェクト紹介~

- ☆ スタッフ班 ☆  
昨年12月には福島、今年3月には岩手・宮城に行きました。自分の目で被災地の現状を知ることができ、とても勉強になりました。今年もまた福島へ向かいます。
- ☆ 防災班 ☆  
学生にできる範囲で、防災意識向上の啓発などを行っています。防災訓練や学校保護者支援などを中心に活動しています。
- ☆ 学食班 ☆  
大学の食堂で福島・宮城・岩手の県産産物を定期的にわけて販売しています。学生に食べてもらって、東北産物に目を向けてもらうのが目的です。今年も計画中です。
- ☆ 学祭班 ☆  
昨年の学祭ではお色紙やおまけを販売し、売上は東北へ全額寄付しました! 目玉焼き入りのやさしおはこも好評でした♡
- ☆ 物産展班 ☆  
物産展班は、東北産物と何かかという思いから生まれた企画です。東北の食べ物や手作りの商品を販売する以外にも、風化の防止も目的としています!!
- ☆ 子ども支援班 ☆  
気仙沼にある児童館で活動します! おやつをみんなで作り、遊んだり、子どもたちの思い出に残るような企画をしています!
- ☆ 遠野ボランティア班 ☆  
NPO法人遠野山屋ネットさんと協力し、夏のボランティアの企画をしています。夏! この新聞を書いているのです! 企画が大好きな遠野班のメンバーです!

チーオレ新聞 (ウラ) →

# 19. 飯田橋グランブルーム まちのわ防災Festa

**日時**：2015年 9月 5日（土）

**場所**：飯田橋グランブルーム

**概要**：

## 1. 内容

9月5日（土）に「まちのわ 防災Festa」が飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと開催されました。

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベント。

市ヶ谷ボランティアセンターは、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）、IVUSA、チームオレンジ、キャンパスエコロジー・フォーラム、VSP と連携し本イベントを盛り上げました。

<各団体の実施内容>

### ■理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）

- ・最新レスキューロボット実演  
災害時に、人命救助活動を支援するレスキューロボットの実演を行いました。

### ■キャリアデザイン学部荒川ゼミ

- ・LEDランタンづくり  
災害時の停電の暗闇でも使える必需品を参加者と一緒に作成しました。
- ・デコレーションヘルメットづくり  
自分だけのオリジナルヘルメットを参加者と一緒に製作しました。

### ■チームオレンジ、キャンパスエコロジー・フォーラム、VSP 3団体合同

- ・防災クイズ  
意外と知らない防災に関するクイズを出題し、参加者の知識を深めました。
- ・簡単防災グッズづくり  
新聞でつくるスリッパやキッチンペーパーを使った簡易マスクなど簡単防災グッズを参加者と一緒に製作。
- ・防災マップづくり  
防災マップを参加者につくってもらい、飯田橋駅周辺の防災を知り、初期行動や避難場所について学んでいただきました。

### ■IVUSA

- ・防災カルタ  
参加者の防災の知識をオリジナルカルタで深めていきました。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来ました。



## 2. 参加者数

673名

## 3. 背景・目的

- ・地域貢献ボランティアについて意識を高め、関連団体同士で繋がりを深めイベントの共同企画をしていく。
- ・防災についての知識を深め、地域の施設などの情報を共有する。
- ・防災に関する学内の研究成果などのアピール。





# 20. 夕張まちづくりボランティアツアー

**日時**：2015年9月10日（木）～9月12日（土） 事前研修会 9月7日（月）

**場所**：北海道夕張市

**概要**：

## 1. 内容

財政破綻の町として有名である北海道夕張市にて学生15名・教職員3名の計18名による7度目の「夕張まちづくりボランティア」を実施しました。

昨年と同様、障がい者スポーツの普及に取り組む夕張のNPO法人「あ・りーさだ」が開催した、障がい者スポーツの体験競技会「あだリンピック」の手伝いをしました。障がい児やきょうだい、保護者ら約30名とイベントを通じて、交流ができ、充実した活動になりました。

また、北炭夕張炭鉱千歳鉱坑口の雑草除去作業を実施し、生い茂る雑草で見えなくなっていた坑口が見えるようになりました。坑口の雑草除去作業終了後、夕張市が所蔵する映画に関する書籍の整理も行いました。ボランティアだけではなく、夕張の歴史と現状を知るということで、石炭博物館や夕張シューパロダム、新しい市営住宅等の市内見学を実施しました。

また夜には、夕張市議会議員、夕張市職員などの夕張市でご活躍している方々を招き、懇談会を実施し、夕張の実情なども学ぶことができました。「夕張まちづくりボランティア」は、2010年2月に夕張市長と学生センター長との間で締結した「連携協力に関する協定」にもと行なわれています。

## 2. 参加者数

15名

## 3. 参加学生の感想（アンケートより抜粋）

---

自分が想像していた以上にボランティアが自分に与えてくれたものは多かったです。

今までは見えなかったボランティアの受け入れ側の下準備、学生ができる事の少なさ、コミュニケーションの大切さ等、日々自分の無力さと学の浅さを痛感しました。今後は今回の夕張の経験を生かし、様々の事に積極的にチャレンジしていこうと思えました。

---

3日間ありがとうございました。私は特別夕張に興味を持って参加したものではありません。

そのため、この3日間私は多くの事を学びました。そして、日本にはこのような町があるのか、と思いました。

あそこは時間が止まった町だと感じます。でも実際は少しずつ前に進もうとしているのだとも思います。

またいつか、できれば来年それを見に来たいと思います。

---

人生の中でもベスト3に入るとても貴重な体験ができました。市長が来られなかったのは残念ですが、夕張のいろいろな方からお話を聞く事ができ、とても勉強になった。この経験をこれから活かして公務員になりたいと思う。

## 4. 背景・目的

- ・実際に体験することで、身近なボランティアに気づいてもらう。
- ・学外の行政関係者などと直接話しをすることにより、普段触れることのない現場の話を知ることができる。





障害者スポーツイベント



障害者スポーツイベント集合写真



坑口雑草除去作業



坑口雑草除去作業集合写真



書籍の整理



石炭博物館見学

# 21. エコキャップ回収ボランティア

**日時**：2015年9月～2016年3月 毎月1回昼休み

**場所**：市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

**概要**：

## 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。月に1回ペットボトルキャップを回収するボランティアを行っています。

学生の環境に対する意識を高めるために一般学生と一緒に活動し、集めたペットボトルキャップは回収業者に送付してリサイクルに活かしています。

VSPが中心で活動していましたが、9月より一般学生にも参加を呼びかけました。

今年度のVSPの回収は94,689g、市ヶ谷校舎全体で274,305gにもなりました。

## 2. 参加者数

日程	参加者数
9月16日（水）	3名
10月7日（金）	6名
11月17日（火）	5名
12月22日（火）	3名
1月20日（水）	3名
2月18日（木）	3名

## 3. 背景・目的

- ・学内などの身近なボランティアへの貢献。
- ・環境に対する意識の向上。

～学生スタッフVSP企画～  
「エコキャップ回収ボランティア」募集！

VSPエコキャップ回収  
**9月16日（水）**  
12:50～13:20 お昼休み

**み**んなで  
エコキャップを回収  
しよう！

いつもなげなく捨て  
ているエコキャップを  
フクチンや再生容器に  
生かしましょう！  
みなさんの力 お待ちし  
てます。  
VSPスタッフ

学内のペットボトルキャップを回収日に  
一緒に集めてくれる人を募集していま  
す。人数が多いほど、早く回収できます。  
（毎月2回位の頻度）

「プチボラ」しませんか？  
お申込みはボラセンまで。

●お申込は… 市ヶ谷ボランティアセンター  
⇒ 窓口にて申込書記入  
●お問合せは…市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階）  
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

## 22. 法政フェア（東北物産展）

**日時：**2015年 9月 20日（日）

**場所：**外濠校舎1階 エントランス

**概要：**

### 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が、9月20日（日）に行われた法政フェアで「東北物産展」を実施しました。

チーム・オレンジは、東日本大震災によって被災した地域の支援や風化防止活動、防災啓発活動を行っています。今回は法政フェアに初めて参加し、外濠校舎1階にて「東北物産展」を行い、東北のおいしい食べ物や東北ならではの工芸品などを販売いたしました。来場者には、東北の魅力を感じ、興味をもっていただけたと思われました。

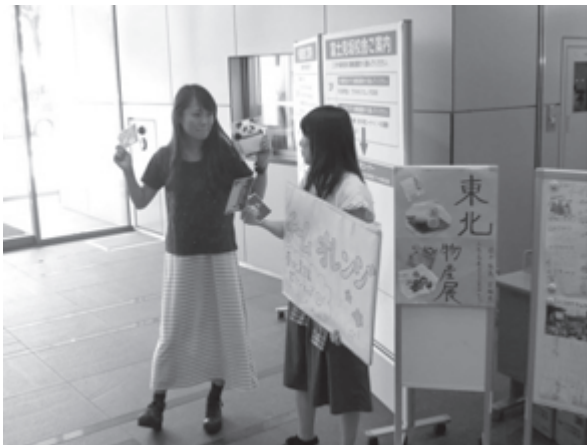
チーム・オレンジの学生たちは、多くの人々に来てもらうために、宣伝ポスター、商品説明のポップ、チーム・オレンジの活動内容を記載した模造紙等を作成し、日々の活動報告、被災地支援活動などの告知を行いました。物産展の売上は、岩手、宮城、福島義援金口座に寄付いたしました。

被災地の復興を支援するため、震災を風化させないためにも、市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのような取り組みを企画していく予定です。

### 2. 参加者数 328名

### 3. 背景・目的

- ・東北被災地への支援。
- ・イベントの企画（商品見積りから仕入れ、商品選定など）から運営まで学生の自主的活動の促し。
- ・学内外へのボランティアスタッフの活動の周知。





# 23. 手話講座（入門編）

**日時：**2015年10月8日、10月15日、10月22日、10月29日、11月5日、11月19日、12月10日、12月17日（木曜日・入門編8回と番外編講座）

**場所：**富士見坂校舎3階 F308 教室

**概要：**

## 1. 講師

NHK 手話ニュースキャスター 中野 佐世子氏

## 2. 内容

手話講座テキスト「手話ゲームブック」をもとに、全8回にわたり手話の基礎を学びました。

指文字の練習からはじめ、簡単な会話の習得などを行いました。

## 3. 参加者数

110名（延べ人数）

## 4. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

とても楽しく手話を勉強することができました。

手話だけではなく、実際の体験話や、ろうあ者のこと等とても貴重な話を聞くことができ、素晴らしい講座でした。

本当にありがとうございました。もっと手話の事、ろうの事を学んでいきたいと思えます。

=====

ほんとうに楽しかったです。先生とお別れと考えると寂しいです。もっと色々教わりたかったです。

短い間でしたが、ありがとうございました。

=====

とても充実した講座を受講できて本当によかったです。次の機会があれば、是非参加したいと思えます。

先生のお話はいつも感心することばかりでためになりました。

## 5. 背景・目的

- ・基礎的な手話の習得、聴覚障がい者への理解。
- ・ボランティアに対する意識の向上。

手話講座  
入門編 中

指文字の練習から始め、  
あいさつや自己紹介など、  
簡単な会話の習得までを学びます。  
ぜひこの機会に手話にふれてみませんか？

＊手話にまったくふれなかったことのない  
初心者も対象にしています＊

＊定員がありますので、ぜひお早めにご  
予約ください＊

Rainbow

10月8日(木)～全9回  
10月8日、15日、22日、29日、11月5日、19日、  
12月3日、10日、17日 毎回 木曜日に開講

時間：16:50～18:20（5限）  
場所：富士見坂校舎3階 F308  
参加費：無料  
募集対象：本学学部生、教職員・定員40名（定員に達し次第締め切り）  
講師：NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子 氏  
申込み方法：市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書記入

【お問合せ】市ヶ谷ボランティアセンター（外環校舎1階）  
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp





# 24. 富士見わんぱくひろば

## 「わんぱくこどもまつり」ボランティア

～ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～

**日時：**2015年10月24日（土）

**場所：**富士見わんぱくひろば

**概要：**

### 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンターでは、10月24日（土）、千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくこどもまつり 2015」に協力しました。マジシャンズクラブ、児童文化研究会、一般応募した学生を含む計24名の本学学生が参加しました。マジシャンズクラブの学生は、ステージ上で約30分程度マジックを披露し、特に鳩を用いたマジックは、子供たちから大好評でした。

児童文化研究会の学生は「おおきなかぶ」の巨大紙芝居を披露し、一般応募した学生たちは、パレードの交通整理、工作教室の補助、ハロウィンをテーマにしたゲームの運営を担当しました。

また、本プログラムに参加した学生たちからは、「自分たちの活動が地域貢献に繋がって、嬉しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していきます。

### 2. 参加者数

- ・富士見わんぱくひろばボランティア「わんぱくこどもまつり」： 7名
- ・ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア

～わんぱくこどもまつり 2015～： 17名

### 3. 背景・目的

- ・異世代との交流（子ども）を通じた「ボランティア」の実践。
- ・地域の一員としての自覚を持ちながら、地域貢献活動をする。
- ・ボランティアに対する意識の向上。



# 25. 富士山清掃ボランティアツアー

**日時**：2015年10月25日（日）

**場所**：富士山麓

**概要**：

## 1. 内容

10月25日（日）、ボランティアセンターでは、関西大学と合同で、「NPO法人・富士山クラブ」のご指導のもと、学生43名・教職員4名で

『富士山清掃ボランティアツアー』を実施しました。

バスの中では、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）を中心とした企画スタッフがレクリエーションを行うことによって、参加者間の交流が深まりました。

現地ではまず、雄大な富士山の姿を間近に望むことのできる、NPO法人・富士山クラブの本部「もりの学校」にて、富士山クラブスタッフによるオリエンテーションを受け、環境問題や、不法投棄の現状について学びました。

その後バスで移動し、バスを降車後1時間程度富士の樹海を歩き、活動場所に到着しました。

作業現場は数か所あり、車のバッテリー、廃屋を解体した際のがれきや、木材、ガラス等が山のように積み重なっていましたが、法政大学と関西大学の学生が協力することにより全て撤去することができ、ごみの総量は600kgにもなりました。

活動後は再び「もりの学校」に戻りました。今回は、同日に偶然活動していた東洋大学と合流し、各班にわかれ、情報共有、振り返りを行い、清掃活動を広めるアイデアを発表するなど、充実した活動となりました。

今後も関西大学ボランティアセンターと法政大学ボランティアセンターは協力して富士山の清掃活動を継続的に行っていきます。

## 2. 参加者数

47名

## 3. 参加学生（企画スタッフ）の感想

○業者の不法投棄の現状を見て、本当にこんなことが起こっているということを実感しました。

今後ボランティアの活動を広げると同時に、ゴミの投棄自体を減らすことを考えていけたらいいと思います。

○初参加でしたが、いろいろ学びがありました。特に感動した事は、お互い初対面の参加者が多いのにも関わらず清掃の現場では役割分担チームワークが自然に成立して、多量のゴミがまたたく間に片づいた事です。

そして関西大学や東洋大学の学生達とも交流できたのも良かったです。

大学は違ってもボランティアに対する思いは同じなのだなあと痛感しました。

○富士山の現状をこの費用で知ることができてよかった。不法投棄がひどいという事はメディアでは何度も見たが、実際に見たことでやっと現実感、危機感が持てた。長期的な活動の重要性を感じたので、改善策などを話し合える時間を今後持てたら嬉しい。富士山クラブやVSPの方のおかげでスムーズに活動できて楽しかった。

法政大・関西大合同  
富士山清掃ボランティアツアー

10月25日（日）  
2,000円（送料別）  
※往復交通費、昼食代、保険代込

7:30 市ヶ谷キャンパス  
新見附校舎前集合

スケジュール

7:45 市ヶ谷キャンパス出発  
10:15 富士山クラブ・もりの学校到着  
オリエンテーション&環境学習会  
11:15 昼食  
12:45 清掃活動  
15:00 振り返り  
16:00 出発  
19:30 市ヶ谷キャンパス着予定

活動場所 富士山麓  
募集対象 本学学部生  
募集人数 40名  
申込締切 10月2日（金）  
※定員になり次第締め

申込方法 下記窓口にて申込書記入

お申込・お問い合わせ

市ヶ谷ボランティアセンター 03-3264-9516  
多摩校ボランティアセンター 042-783-2071  
多摩校学生生活課 042-783-2152  
小倉町学生生活課 042-387-6048



学年、学部、キャンパスを越えて様々な学生とかかわる機会が持てて有意義なツアーだった。参加できてよかった。ありがとうございました。

#### 4. 背景・目的

- ・富士山清掃活動を通し、環境に対する意識やボランティア精神を養うこと。
- ・活動を通し環境保全、不法投棄の実態について学ぶ。
- ・他大学のボランティアセンターとの交流（情報交換等含む）の場。



ミーティング



作業前の現地打ち合わせ



作業風景①



作業風景②



全体写真



作業前の打ち合わせ

# 26. ボランティア総合講座第4回

## 「講談師 田辺凌鶴が語る（夕張再生市長 鈴木直道）」

日時：2015年10月26日（月）

場所：外濠校舎1階 メディアラウンジ

概要：

1. 講師 講談師 真打 田辺 凌鶴 氏
2. 内容

2006年に財政破綻した北海道夕張市について、講談師（真打）の田辺凌鶴氏に、OBの鈴木直道氏を中心に語っていただきました。

なぜ夕張市の財政が破綻したか、歴史と経緯を追いながら説明があり、鈴木直道氏が夕張市市長に当選するまで、また夕張市の現状と再生への道のりなどを、張り扇を使った独特の節回しで語っていただきました。

当日着席で聴いていた学生や職員もいましたが、興味をそそられ、立ち見などで聴いていた方もいて、語りの魅力を感じていたようです。

今回のボランティア総合講座は、夕張まちづくりボランティアで活動しているVSPが企画段階から講談師との連絡、当日の会場セッティング（他サークルとの連絡調整）、進行などを行いました。

最後の質疑応答の時間では、法政大学の元職員でもある田辺凌鶴氏に講談師について、講談の内容などの答えづらい質問にも笑いを交えお答えいただき、大変有意義な時間になりました。

ボランティア総合講座第4回  
講談師 田辺凌鶴が語る  
「夕張再生市長 鈴木直道」

10月26日（月）  
16:50～18:20  
外濠校舎1階 メディアラウンジ 定員100名

2006年に財政破綻した夕張市、  
講談師（真打）の田辺凌鶴氏に、本学OBの夕張市長「鈴木直道氏」について、  
また夕張市での活躍をわかりやすく楽しく語っていただきます。夕張市の現状そして  
ボランティアセンターでの「夕張まちづくりボランティア」の役割も語っていただきます。  
公務員志望の方や行政に興味のある方は、ぜひご参加ください。

【申込方法】市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入  
【問い合わせ】市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階）  
Tel：03-3264-9516 Mail：ichigaya-vc@hosei.ac.jp

### 3. 参加人数

26名

### 4. 背景・目的

- ・ボランティア活動をしている夕張市の再生について考える。
- ・講談と講談の歴史について学ぶ。



VSPの説明



田辺 凌鶴氏 講談風景



# 27.お昼ごはん東北へ出かけませんか？

## ～ 東北復興支援メニュー ～

**日時：**2015年11月16日（月）～20日（金） ソースかつ丼（福島県）  
11月23日（月）～27日（金） じゃじゃ麺（岩手県）  
11月30日（月）～12月4日（金） 鮭いくら丼（宮城県）

**場所：**ボアソナードタワー地下1階フォレストガーデン

### 概要：

#### 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」は、学食の委託事業者である東京ケータリング(株)と協力し、11月16日～12月4日の3週に渡り、ボアソナードタワー地下1階フォレストガーデンにて、東北3県にちなんだメニューを提供しました。

東日本大震災から約4年と9か月が過ぎた今、チーム・オレンジでは、震災の記憶が風化しつつあるのではないかと感じ、法大生に対してできる風化防止策として、学生に身近な学食と連携して東北にちなんだ料理を提供し、震災についてもう一度考えるきっかけを作ってはどうかと考え、昨年度に引き続き本企画を行いました。



チーム・オレンジのメンバーが東京ケータリング(株)とミーティングや試食会を実施して考案したメニューのラインナップは、11月16日（月）～20日（金）が「ソースかつ丼（福島県）」、23日（月）～27日（金）が「じゃじゃ麺（岩手県）」、30日（月）～12月4日（金）が「鮭いくら丼（宮城県）」でした（価格は全て500円）。販売数は下記の通りです。

- ソースかつ丼 290食
  - じゃじゃ麺 223食
  - 鮭いくら丼 235食
- 計 748食

期間中、フォレストガーデン内には、各県の現状や観光スポットの紹介、3月に実施したスタディーツアーや、8月に実施した岩手県遠野市でのボランティアを含めた、チーム・オレンジの活動紹介などの模造紙を掲示しました。

協力：法政大学事業室、東京ケータリング株式会社

#### 2. 企画学生の感想

今回の企画では、平均すると1日約50人という多くの方々に、東北復興支援メニューを食べていただくことができました。自分自身も、開催期間中は何度も学食に足を運びました。

チーム・オレンジの活動報告や、東北の見どころなどが書かれた掲示物に、多くの学生たちが目を向けてくださっていたように思います。しかし、開催前と開催中の両方において宣伝が不十分であったため、一部の学生にしかな企画を知ってもらえていなかったという反省点もあります。

大学の学食とのコラボレーションというのは、学生スタッフだからこそできることだと思います。なので、今回の反省を生かしながら、より多くの学生に東北について興味を持ってもらえるような企画を、また実施できたらよいと思っています。最後に、ご協力いただいた東京ケータリングのみなさんや大学の職員さん方に、心から感謝を申し上げます。

チーム・オレンジ学生スタッフ 西川 結子（国際文化学部・国際文化学科3年）

### 3. 背景・目的

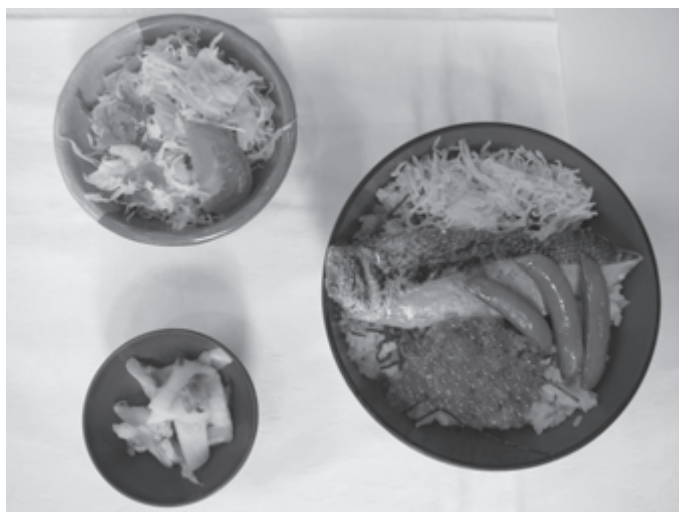
- ・学生主動のボランティア企画の実践。
- ・東日本大震災の風化防止。
- ・ボランティア活動の告知。



ソースかつ丼



じゃじゃ麺



鮭いくら丼



試食

# 28. ファシリテーション入門講座

日時：2015年11月21日（土）

場所：外濠校舎5階 526会議室

概要：

## 1. 講師

NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー 鈴木まり子氏

## 2. 内容

「ファシリテーション」とは、ミーティング等の話し合いの場で発言や参加を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認しながら、合意形成や相互理解をサポートし、組織や参加者の活性化や協働を促進させるコミュニケーションスキルです。

当日はグループに分かれ、一つの課題を解決まで導くシミュレーションを通し「ファシリテーション」を学びました

## 3. 参加者数

14名

## 4. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

MTGの中で意見が多く出すぎるといふ事に対して、質問をしぼると広がり過ぎないといふところが印象に残りました。ファシリテーターといふ概念をみんなで共有することがMTGが円滑に進むと思ひました。スタッフにファシリテーター概念を共有します。今回はとても内容が濃く、そして楽しい講義をありがとうございました。これから自分の所属する団体、ゼミで生かしていきたいと思ひました。

=====

椅子の並べ方で会議がかわるといふところが印象に残りました。参加者が主役といふ部分も。限られた時間で中身の濃い内容でした。

参加者の意識の高さに感心しました。

=====

ファシリテーターが仕切りテーターになってはいけない、溶けこむくらいが理想だといふところが印象に残りました。リーダーとしての話し合いに生かしていきたいです。

とても丁寧に、そして楽しく教えてくださり、とても充実してました。「ファシリテーション」といふものを1から学ぶことができたと思ひました。ありがとうございました。

=====

最も印象的だったのは、ファシリテーターといふ立場でいながらも、参加者を主体にしながらか話を混沌とさせるといふこと、また、よい話し合いはスムーズなことではなく、当事者意識を持ってもらう、といふことです。

「ファシリテーション」ってなんだと思ひますか？

ミーティングなどの場で、「なかなか意見がまとまらない」「盛り上がったけれど何も決まらなかった」「1人の意見で決まってしまう」といふ経験がある皆さんか？

組織などでのリーダーとしての能力として、また、自らのミーティングなどのコミュニケーションの技法としての「ファシリテーション」

講師アシスタント募集！

講座の受付や、進行補助してくれる講師アシスタントも募集します（定員5名・5名程度）

ご希望の方は、申込書にお申出ください。

※申込締切：11/9（月）20時頃まで

※場所：市ヶ谷ボランティアセンター

（本学キャリアデザイン学部兼任講師 / NPO法人 日本ファシリテーション協会フェロー）

参加費：無料（お弁当付です！）

申込み：市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階）にて申込書記入

日時：11月21日（土）  
11:00～16:00  
場所：外濠校舎5階・526会議室  
定員：30名  
講師：鈴木まり子氏

市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター隣）

【電 話】 03-3264-9516 [e-mail] ichigaya-vc@hosei.ac.jp  
【開室日】 月～金（祝日除く） 【開室時間】 9:00～17:00

早速学んだスキルを実践したい。自分のグループメンバー全員に受けて欲しい内容でした。もっとファシリテーションについて学んでいきたいです

## 5. 背景・目的

- ・ 基本的ファシリテーション技術の習得。
- ・ ボランティアに関する意識の向上。



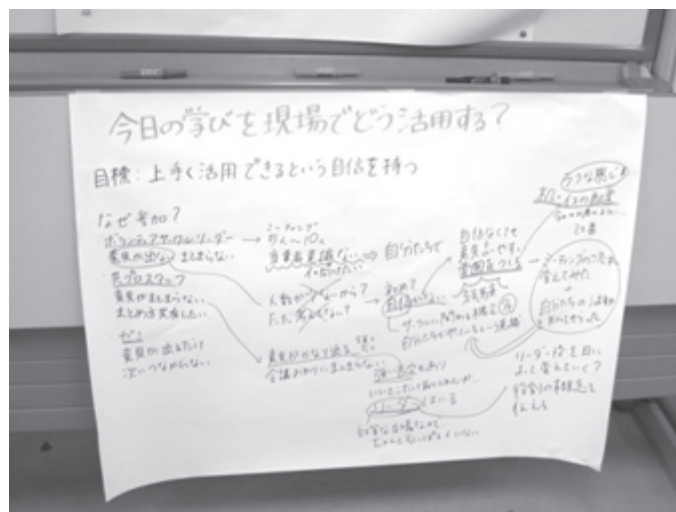
ファシリテーション入門講座①



ファシリテーション入門講座②



椅子の並べ方で違う



ファシリテーションの分析



# 29. DIALOG IN THE DARK (ダイアログ イン ザ ダーク)

日 時：2015年11月24日（火）

場 所：東京都渋谷区神宮前 2-8-2 レーサムビル B1F

## 概 要：

### 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、11月24日（火）、  
「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を実施し、16名の本学  
の学生が参加しました。

本プログラムは、特定非営利活動法人ダイアログ・イン・  
ザ・ダーク・ジャパンが実施しており、1名のアテンド  
（視覚障がい者）のサポートのもと、完全に光を遮断した  
空間の中を探検し、様々なシーンを体験することが出来る  
プログラムです。

今回は、「形なき大切なものと出会う五感の目覚め」という  
プログラムを体験し、参加学生たちは、完全に暗闇の中、  
藪やトンネルやゲートなどの障害を、声をかけあい協力す  
ることによって攻略していきました。



また道中には、穴の中にボールを落とすゲームや、綿を触覚だけで探しだし、丸める体験などがありました。  
最後には、完全に光が遮断されたカフェで飲み物やお菓子を注文し実際に飲食しました。

本プログラムを通して参加学生は、視覚障がいを持った方への理解、コミュニケーションの重要性に気づいたよ  
うで、今後もこのようなきづきのきっかけとなるプログラムを市ヶ谷ボランティアセンターでは、実施してい  
きます。

### 3. 参加者数

16名

### 4. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

いつもいかに視覚に頼って生活していたのかを知ることができました。声だけのコミュニケーションのほうが人の  
中身がよくわかることに驚きました。外見に今までとらわれていたのだと気づきました。暗闇の中ではすごいチーム  
ワークを発揮出来たのに、明るい世界に戻るとまた他人のようで、少し寂しい不思議な体験が出来ました。

暗闇の中で、お菓子を食べたが、どんなお菓子なのか、感触や舌で探りながら食べることがすごく楽しかった。「あ  
っマシュマロだ！クリだ！おせんべい！」と発見しながら食を楽しみました。あたり前のことが新鮮に感られて、新  
しい世界はまだまだあると感じました。

## 5. 背景・目的

- ・ 視覚障害者への理解。
- ・ ボランティアに関する意識の向上。
- ・ コミュニケーションの重要性。



集合写真



事前説明

# 30. 福島スタディツアー

**日時:** 2015年11月29日(日)

**場所:** 福島県いわき市

**概要:**

## 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、11月29日(日)、  
「福島スタディツアー」を実施し、37名の本学の学生が参加しました。

本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ  
が企画し、各種手配、広報、当日の運営を行いました。

毎年3月に実施している岩手・宮城被災地スタディツアー(2泊3日)  
だけではなく、今まで被災地に足を踏み入れたことが無い学生を主なター  
ゲットに、日帰り可能なよりハードルの低いスタディツアーを企画  
しました。

楡葉町では特定営利活動法人のハッピーロードネットの方から、3月11  
日から現在に至るまでの歩みや、復興の状況についてお話をして頂きました。その後、福島第一原発から半径20  
キロにあるJヴィレッジに移動し、原発事故収束のための拠点を見学し、東京電力の方に説明をして頂きました。  
日本代表が使用していたピッチが復興のため、現在は駐車場として使用されている状況に学生たちは衝撃を受け  
ていたようです。

その後、アクアマリンふくしまに移動しました。東日本大震災の影響で、アクアマリンふくしまも甚大な被害  
を受け、多くの生きものたちを失いました。様々な苦境を乗り越え、再オープンを遂げるまでのプロセスをお  
話して頂いた後に、水族館の見学をしました。

最後にいわき・ら・ら・ミュウで買い物や食事をとり帰着しました。

現地にて、様々な震災遺構を見て、被災者の話を聞き、さらに買物や食事をする事で、震災の記憶を共有し、  
風化防止の一助となる事が出来ました。

また、このプロジェクトを通じて、チーム・オレンジの学生スタッフは、企画書作成、準備、当日の運営など  
のプログラムの一連の流れを学ぶことで来ました。

今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、震災の風化防止の一助となるプログラムを実施していきます。

====

## ルート(日帰り)

法政大学出発→現地NPO法人のお話し→Jヴィレッジの見学→アクアマリンふくしま(講話・水族館見学)→いわき・  
ら・ら・ミュウ(夕食)→法政大学出着

====

## 2. 参加者数

37名

## 3. 背景・目的

- ・学生主動のボランティアプログラムの企画実現。
- ・東日本大震災の風化防止、現状把握。





ハッピーロードネットのお話



集合写真



Jヴィレッジ 東京電力の方からのお話



アクアマリン福島の方からのお話



アクアマリン福島1



アクアマリン福島2



# 31. ボランティア総合講座第5回 「今、私たちに必要とされている国際協力」 ～古着回収ボランティアでみる難民支援～

**日時：**2015年12月1日（火）

**場所：**外濠校舎5階 526会議室

**概要：**

**1. 講師** 株式会社ファーストリテイリング CSR 部  
学生難民支援サポーター運営担当 幸 あかり氏

**2. 内容**

市ヶ谷ボランティアセンター主催で12月1日（火）ボランティア総合講座第5回、「今、私たちに必要とされている国際協力～古着回収ボランティアでみる難民支援～」を実施し、22名が参加しました。

世界には、貧困に苦しむ人々がたくさんいます。そのような世界の現状を知りながらも、「私たちではなにもできない」と考えてしまったり、その現状から目を背けてしまう人も少なくないと思います。自分にとっていらぬ「古着」を役立ててもらおうという身近なボランティアを知ってもらうためにVSP（市ヶ谷ボランティアセンタースタッフ）が企画しました。

講師には、世界の貧しい人々に手を差し伸べている団体（UNHCR）とともに「古着の回収ボランティア」を行っているユニクロの（株）ファーストリテイリング CSR 部 学生難民支援サポーター運営担当 幸あかり氏にお話をいただき、難民支援・古着の需要について、多くの学部生に関心を持ってもらうことができました。

また本プログラムに参加した法政大学女子高等学校と2015年12月14日（月）～18日（金）に古着回収を実施し、約20kgの衣服を回収することができました。

**3. 参加人数**

22名

**4. 企画学生の感想**

今回、講座および活動を新規で企画するのは自身の初めての試みでした。連絡を頻繁に行うことに苦手意識を持っていたので、周りの方々にご迷惑をおかけしてしまうことも多かったように感じますが、それ以上に得られたものが多く、やってよかったなと感じています。

企画をすることの大変さ、連絡の重要さなど、何もない状態から企画することで学んだことが多かったため、今後の生活、特に社会人になってからこれらの学びを存分に役立てていこうと思っています。また、今回の企画を通して国際協力についての意識もより高まったので、今後も引き続き目を向けていきたいと考えています。



講義風景①



講師



講義風景



ユニクロ回収 BOX

## 32. 盲ろう者について学ぼう（手話講座番外編）

**日時：**2015年12月3日（木）

**場所：**富士見坂校舎3階 F308 教室

**概要：**

### 1. 講師

ルーテル学院大学生 森 敦史さん

NHK 手話ニュースキャスター 中野 佐世子氏

### 2. 内容

12月3日（木）、「手話講座番外編 盲ろう者について学ぼう」を実施し、20名の学生・教職員の参加がありました。本企画は、10月8日から毎週木曜日に実施している手話講座の番外編として実施し、手話講座を受講していない学生・教職員の参加もありました。

手話講座の講師であるNHK手話ニュースキャスター中野佐世子氏に今回の講座では司会をしていただき、先天性の盲ろう者である森敦史（ルーテル学院大学学生）さんに講師をしていただきました。森さんは盲ろう者であるため、光がわかる程度であり、声の判別や発話は出来ないの、話通訳の方を介して、現在までの生き立ち、主なコミュニケーション方法、盲ろう者と接する時の注意点について教えて頂きました。

最後に、手話講座で学んだ知識を活用して、学生が森さんに触手話で質疑応答を行い、講座終了後も森さんと交流を深めました。今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、障がい支援のきっかけとなるプログラムを実施していきます

### 3. 参加者数

20名

### 4. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

今回初めて盲ろう者の方とコミュニケーションをとった。目が見えない人や、耳が聞こえない人とは何回かコミュニケーションをとったことがある。

目が見えない人は音でコミュニケーションとり、耳が聞こえない人は文字でコミュニケーションをとっているが、盲ろう者の方は触れることだけで普段の生活をしなければならない。何をするにしても触覚だけで、全ての情報を理解するのは1人では出来ないことが多いと思う。1人でも多くの方が理解し、協力者になることが大事であると今回の講座に参加して強く思った。

====

障がいの度合いによって接し方が少し違って、障がい者が提示してくれるコミュニケーション手段に応じ対応すればいいことと、森さんの経験談よりタクシーで、頼んだ場所に降ろしてもらえなかった事、コンビニでペットボトルを買うのに30分もかかってしまった事などの話が印象に残っています。とても貴重な話をきけて体験もできたので、自分の将来に活かしたいと思いました。

盲ろう者について学ぼう  
手話講座 番外編  
目が見えない、耳が聞こえないってどう思いますか？

生まれつき 目が見えない耳が聞こえない大学生の森 敦史さんと会話しながら、「伝える」という事を実際に体験してみませんか。福祉について興味がある方、ボランティアについて知りたい方、ぜひご参加ください。コミュニケーションから何かを学んでいきます。

12月3日(木)

時 間 : 16:50~18:20 (5限)  
場 所 : 外環校舎 526 会議室  
参加費 : 無料  
参加対象 : 本学学部生、教職員・定員40名(定員に達し次第締め切り)  
講 師 : ルーテル学院大 森 敦史さん・NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子氏  
申込み方法 : 市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書記入

●お問合せ・申込み 市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階)  
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosel.ac.jp



## 5. 背景・目的

- ・ 基本的手話の習得、聴覚障害者への理解。
- ・ ボランティアへの姿勢の学び。



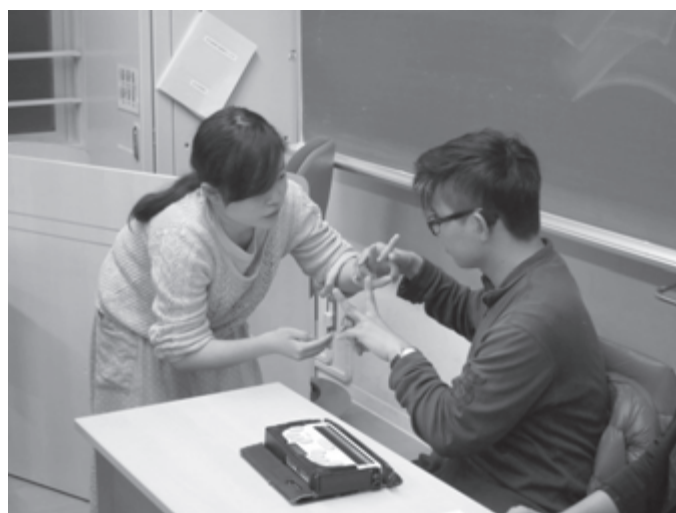
森さんの手話の様子1



森さんの手話の様子



森さんと参加学生の触手話の様子1



森さんと参加学生の触手話の様子2



森さんと参加学生の触手話の様子3



森さんと参加学生の触手話の様子4



# 33. 学生スタッフが教職員に教える応急救命講座 (防災訓練内に実施)

**日時：**2015年12月8日(火)

**場所：**外濠校舎6階 薩埵ホール

**概要：**

## 1. 内容

12月8日(火)、市ヶ谷キャンパス外濠校舎薩埵ホールにて、秋学期防災訓練を実施しました。今回はボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが講師となり、教職員に救命処置講習を実施し、54名が参加しました。

チーム・オレンジは、東北被災地支援、防災啓発についての様々な企画を実施しているボランティアセンター所属の学生団体です。講習は、まずチーム・オレンジの学生が、マネキンを用いて胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用法について実演を行い、その後グループに分かれて参加者が実技を行うという内容でした。チーム・オレンジの学生は、各グループの実技指導も行いました。

本講習を実施するために、チーム・オレンジの学生は、アドバイザーである一般社団法人防災教育普及協会事務局長宮崎賢哉氏との事前勉強会の実施や、立川防災館に行くなどして、救命処置の知識レベルを他者に指導出来るレベルまでに高めることが出来ました。また関連部局の大学職員とのミーティングを重ねることによって、プロジェクトの進め方を学べ、本講習を実施することによって大きく成長することが出来たようです。

また、参加した教職員からは「学生が指導役だったので、手が抜けなかった。」、「学生がここまで教えられるとは思っていなかった。」などの感想もあり、非常に有意義な講習になりました。

チーム・オレンジの学生は、12月18日に開催する「起震車・非常食の体験」などの学生の防災啓発につながる企画を今後も実施していきます。

主催：総務部庶務課

協力：一般社団法人防災教育普及協会

## 2. 参加者数

54名

## 3. 背景・目的

- ・学生自ら災害救援の知識、技術を広める。
- ・応急救命についての意識の向上をはかる。
- ・教職員にボランティアセンター学生スタッフの活動への理解を深めてもらう。



実演の様子1



実技指導の様子1



実技指導の様子2



実技指導の様子3



実演の様子2



実技指導の様子4







メディアラウンジの展示



古着回収 BOX も同時に設置



自己紹介ゲームの様子



ジェスチャーゲームの様子



活動報告の様子 1



活動報告の様子 2

# 35. ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が コーディネートする地域貢献ボランティア ～ 市谷小こどもひろば編 ～

**日時：**2015年 12月 14日（月）

**場所：**千代田区立市谷小 こどもひろば

**概要：**

## 1. 内容：

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と連携し企画した子供向けボランティアプロジェクト。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）主催で、12月14日（月）、「ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小こどもひろば編～」を実施し、9名の本学の学生が、市谷小こどもひろばに来室した25名の子供たちと、バルーンアート、ベーゴマやけん玉、追いかけてっこ、マジックなどの遊びを行いました。

本プログラムは、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と企画し、2015年6月29日（火）にも同様に実施しています。今回は、ボランティアサークルのIVUSAと協力して行いました。

当日は、IVUSAはバルーンアート、ベーゴマやけん玉などの昔遊びを披露し、VSPはマジック等を披露しました。その後、校庭にでて、追いかけてっこや、ボールで遊びました。子供たちは、夢中になって参加しており、満足度の高いプログラムだったようです。また、本プログラムに参加した学生たちからは、「小学生と大学生との交流を持つことは中々できることではなく、楽しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）では、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していきます。

協力：市谷小こどもひろば、新宿区社会福祉協議会、IVUSA

## 2. 参加者数

34名

## 3. 背景・目的

- ・学内の他チームと協力しながらのボランティア活動の実現。
- ・学童育のボランティアを通じ地域に貢献する。



けん玉



マジック①



マジック②



マジック③



ボール遊び



バルーンアート



# 36. 起震車・非常食体験

～法政大学で地震を疑似体験してみませんか～

日時：2015年12月18日

場所：富士見坂校舎3階 F308 教室

概要：

## 1. 内容

12月18日（金）、市ヶ谷キャンパス富士見坂庭園にて、「起震車・非常食の体験」をデザイン工学部大島研究室の学生と協力して実施しました。

チーム・オレンジは、東北被災地支援、防災啓発についての様々な企画を実施しているボラティアセンター所属の学生団体です。

本企画は、防災・減災の啓発のため、富士見坂庭園に千代田区から起震車を派遣していただき、地震の揺れを疑似体験した後に、ドライカレーや山菜おこわ、ソフトパンなどのチーム・オレンジがセレクトした非常食を試食するイベントでした。

また、デザイン工学部の大島研究室の学生と協力して食器棚に掛けて扉が開くのを防ぐストッパーOTTO（オットー）の展示を行いました。参加した学生にチーム・オレンジの学生が説明しました。

協力：デザイン工学部大島研究室



## 2. 参加者数

52名

## 3. 企画・参加した学生の感想

今回、チーム・オレンジは起震車・非常食体験を行いました。参加していただいた皆様には、地震の揺れを体験、最新の非常食を試食していただくことで「防災」というものを身近に感じていただけたのではないかなと思っています。また、今回はデザイン工学部大島研究室の学生が設計した防災グッズ「OTTO」の展示をさせていただき、他団体と協力して企画ができたことをうれしく思っています。

今後も、「学生のための防災活動」を基本理念として、企画を行っていききたいと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 2年 岡田 卓朗

起震車・非常食体験のイベントに私たちの製品を展示させて頂き、実際に商品に触れている方を見ることが出来て、とても嬉しく思っております。特別なことだと考えずに、普段からこのようなイベントに参加したり、防災の商品に触れて防犯意識を持つておくことは、非常に大切なことだと思います。改めて普段の心がけの大切さに気づくことができました。

法政大学デザイン工学部システムデザイン学科 4年 大澤 香織

## 4. 背景・目的

- ・災害に対する実体験から得る知識を身につける。
- ・非常食などの試食などを通し、緊急時への対応を心がける



集合写真 1



集合写真 2



起震車体験の様子



非常食体験の様子



起震車体験の様子



OTTO (オットー) の展示の様子

# 37. ボランティア総合講座第6回 通学路に見るユニバーサルデザイン講座

日時：2015年12月18日（金）

場所：富士見坂校舎 F401 教室

概要：

講師 NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子氏

## 1. 内容

ユニバーサルデザインとは、老若男女や障がいの有無などの差異に関係なく使いやすいことをコンセプトとしたデザインです。

通学路など学生にとって身近な空間にあるユニバーサルデザインについて、NHK手話ニュースキャスターをされている中野佐世子氏をお招きして講演していただきました。今回は、『視覚』と『色覚』に着目し視力の弱い方や全盲の方、色彩を認識しにくい方を対象としたユニバーサルデザインに焦点をあて、学生生活の中で最も身近な空間の一つである「通学路」という要素を通してお話していただきました。

普段、日常生活の中で目にしているということもあって、参加した学生は中野先生のお話に引き込まれているようでした。また講演後には、多くの方々が中野先生に質問しており、ユニバーサルデザインに対する興味が芽生えたようで、有意義な講演となりました。

また今回のプログラムは、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画しました。講師の方への連絡や講演内容に関する打合せなどを行うことによって、プログラムの一連の流れを学びました。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）阿由葉 史弥（法学部・法律学科1年）

## 2. 参加者数

13名

## 3. 参加した学生の感想

色覚特性日本人の男性の割合が20人に1人と聞いて驚きました。私の周りに色覚特性の人は聞いたことがありません。はたしてどこにいらっしゃるのでしょうか。また私のアルバイト先も補助犬のマークがあるが、補助犬を連れてこられた方はいません。数値をして出ているように、私が見かけないだけで多くの視覚障がい者がいると思います。講義中にもあった心のユニバーサルデザインが足りないために、外に出られない方がいるのであれば、それはこちらが間違っているのでしょうか。私は福祉部に通っているので、世の中にはどのような人がいるのか、どのような障がいを持っている人がいるのかをもっと知りたいと思いました。

本講義で一番印象に残った言葉は老化にとまらぬ不自由です。生きていれば必ず老いて、たとえ現在健常者であっても多くの人が障がい者になると思います。私は長生きがしたいのです。そのために、自分が生きやすい世の中をつくりたいためにユニバーサルデザインに興味があります。まだまだ知らないことがたくさんあります。多くの事を学び、障がい者のためにも自分のためにも住みやすい世界をつくりたいです。ありがとうございました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 2年

ボランティア総合講座第6回  
通学路に見る身近な  
ユニバーサルデザイン講座  
～視覚・色覚編～

ボランティア  
学生スタッフ  
VSP 主催

12月18日(金) 16:50~18:20

富士見坂校舎 F401 教室 定員 50名  
講師: NHK手話ニュースキャスター 中野佐世子氏

私たちがよく生活の中でみることが出来るユニバーサルデザイン、様々なユニバーサルデザインの中で、「視覚」と「色覚」に着目して視力の弱い方や全盲の方、色彩を認識しにくい方を対象としたユニバーサルデザインに焦点をあて、学生生活の中で最も身近な空間の一つである「通学路」という要素を通して考えます。

【申込方法】市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入  
【問い合わせ】市ヶ谷ボランティアセンター(外洋校舎1階)  
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



点字ブロックの点々間隔、地下鉄のマーク、手帳の色など、普段目にしていてのものの中に実は深い理由があることを知った。通常の生活をしている私にとってはその暮らしが当たり前だという意識が生まれてしまいがちだが、そうではない人たちのことを考えたデザインがいかに大切かが分かったので、今回の講座内容以外のことも自分なりに調べて、どんなことに気がつけたら「みんなが快適な暮らし」に近づけるのか考えてみたい。

また、目が見えない人でも写真を楽しんだり、美術を楽しんだりできることに驚いた。目の見えない人に遠慮するばかりでなく、そういうことを聞いてもいいんだ、と視野が広がった気分だった。

文学部 史学科 3年

私は個人研究で「視覚障がい者と避難」について調べています。

この前、「視覚障害者が街を歩くとき」という本を読み、白杖の使い方、ガイドヘルプの仕方、クロックポジションなどは知っていました。また「色のユニバーサルデザイン」という本で、色弱者の方々の見え方や目のしくみについても学びました。それでも今回、エスカレーターを使えたり、色の仕事ができることも知り、この講義を受けて本当によかったです。

また、最寄駅で階段を白杖で利用して歩行されている方の後を静かについていってみました。白杖利用と伝い歩きを上手く使い、「目が見えてるのではないか」と思っていました！

また、部活の練習で多摩川の駅を利用しているのですが、そこで車掌さんが肘をつかませてガイドしているのを見て、こういう人が増えたらいいなと思いました。私も次は声をかけてみます！！

人間環境学部 人間環境学科 2年

#### 4. 背景・目的

- ・学生が自ら企画・調整するボランティア講座。
- ・ボランティアについての意識・知識を高める。
- ・普段の生活の中でのボランティアについて考える。



講座全体風景



白杖を使つての講義

## 38. アカデミー合唱団による地域貢献ボランティア ～老人ホームでの合唱ボランティア

**日時：**2015年12月20日（日）

**場所：**新宿区西落合 グランダ哲学堂公園

**概要：**

### 1. 内容

12月20日（日）アカデミー合唱団が、新宿区社会福祉協議会からのボランティアイベントとして有料老人ホームグランダ哲学堂公園でのクリスマスコンサートで演奏をしました。

アカデミー合唱団は、1962年に発足された100名ほどが所属している混声合唱団です。クリスマスコンサートは、施設のダイニングスペースで行われ、14名の学生が参加しました。

「法政大学校歌」をはじめ、「きよしこの夜」や「もろびとこぞりて」などクリスマスにちなんだ曲や「見上げてごらん夜の星を」といった名曲まで、誰もが知っている曲をアカペラで合唱しました。

20名～30名もの観客の中には、演奏に合わせ知っている曲と一緒に口ずさんだりされている方もいました。「力強い歌声が晴らしかった」「男女混合の音が美しかった」などと感想もいただき、学生も達成感を味わえたようでした。

最後に思いがけないアンコールにも即興で応えることができ、大変盛りあがりしました。

アカデミー合唱団の学生からは、「ボランティアで演奏するのは初めてだったので不安もありましたが、お客さんと一体になり楽しめ、またスケジュールが合えば演奏してもいいと思っています。」という感想もありました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、外部サークルの学生へのボランティアの紹介なども行っていきます。

### 2. 参加者数

43名

### 3. 背景・目的

- ・地域貢献ボランティアに関する学生の意識の向上。
- ・サークル活動の発表の場。
- ・他サークルの学生ボランティアへの援助。



# 39. ボランティア総合講座第7回 ディスカッションから学ぶ NPO への就職 ～現役 NPO 職員に聞く実体験～

**日時：**2016年1月14日（木）  
**場所：**外濠校舎5階526会議室  
**概要：**

1. **講師** NPO サポートセンター  
協働ステーション中央責任者 杉原志保氏  
コンサルタント 笠原孝弘氏  
認定特定非営利活動法人 山友会 理事 油井和徳氏

## 2. 内容

ボランティアセンター主催で1月14日（木）にボランティア総合講座第7回、「ディスカッションから学ぶ NPO への就職～現役 NPO 職員に聞く実体験～」を実施し、9名が参加しました。NPOに関心を持っていても、就職に関する情報は手に入りにくいという現状があるため、VSP（市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ）が本プログラムを企画しました。

運営を経て、NPOサポートセンターの理事を務める杉原志保氏、新卒から同センターに入職し情熱を持って活動している笠原孝弘氏、生活困難者の支援をする認定非営利法人山友会の代表を務める油井和徳氏ら現役職員の方々の豊富な実体験をディスカッション形式で語っていただきました。

非営利団体だからこそ出来る活動の必要性や、活動の上での課題、関わった人々の笑顔が励みになるなど、NPO職員に就職した方々だからこそ話せる貴重な体験談を参加者は聞くことができ、有意義なプログラムとなりました。

また今回のプログラムは、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画しました。講師の方々への連絡や、プログラム概要の作成などを行うことによって、企画の一連の流れを学ぶことができました。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）平野 友惇（経営学部・経営学科1年）

## 2. 参加人数

9名

## 3. 参加した学生の感想

NPOについての理解が深まりました。非営利組織≠無報酬というのはとても衝撃でした。

（キャリアデザイン学部 キャリアデザイン学科1年）

理念、理想だけでなくなかなかシビアな視点が必要だと思った。

民間と共通することが多いと思った。（仕事の進め方、求められる人物像）

（法学部 政治学科 4年）





====

NPO 団体に対しての意識がかなり変わった。

個人としてのスキルが必須であり、大きな覚悟があって取り組まなければならない。

やりがいは大きいのかなと思います。

(デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 4年)

#### 4. 背景・目的

- ・ 学生が自ら企画・調整するボランティア講座。
- ・ ボランティアについての意識・知識を高める。
- ・ 社会への適応能力を身につける。



# 40. 手話講座（入門編）

**日時：**【手話狂言講座】2016年1月19日（火） 【手話狂言鑑賞教室】2016年1月30日（土）

**場所：**【手話狂言講座】外濠校舎5階526会議室 【手話狂言鑑賞教室】国立能楽堂

## 概要：

### 1. 講師

【手話狂言講座】 日本ろう者劇団 五十嵐 由美子 氏  
NHK 手話ニュースキャスター 中野 佐世子 氏（協力）

【手話狂言鑑賞教室】 黒柳 徹子 氏（お話）、井崎哲也、江副悟史、小泉文子、  
中江央、五十嵐由美子、今井彰人（敬称略）他

### 2. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、1月30日（土）、「手話狂言・初春の会鑑賞教室」を実施し、15名の学生が参加しました。また本プログラムの事前研修として1月19日に「手話狂言講座」を実施し12名の学生が参加しました。

手話狂言・初春の会は、女優である黒柳徹子さんが、著書「窓ぎわのトットちゃん」の印税を寄付して設立した社会福祉法人が主催しているもので、聴覚に障がいのある俳優たちが、手話を使って表情豊かに狂言を演じます。

事前研修として実施した手話狂言講座では、手話狂言・初春の会に出演する日本ろう者劇団の五十嵐由美子氏と、NHK 手話ニュースキャスター中野佐世子氏を講師としてお招きし、手話と狂言の基礎知識や当日の演目の解説、通常の狂言と手話狂言の違いについてお話しいただきました。

1月30日（土）は、能楽堂に集合し、手話狂言・初春の会を鑑賞しました。

黒柳徹子さんから日本ろう者劇団の設立の経緯などを30分程度、お話しいただいた後に、末広かり（すえひろかり）、文山賊（ふみやまだち）、骨皮（ほねかわ）の演目を鑑賞しました。

参加した学生からは「日本ろう者劇団の方々には耳が聞こえないのに、三宅右矩さんの声にシンクロして演じている姿に感動した。」などの意見があり、手話の素晴らしさに改めて気づいたようです。

今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、障がい支援のきっかけとなるプログラムを実施していきます

### 3. 参加者数

15名

### 4. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

・事前講座にて、手話狂言と通常の狂言の違いに、表情の有無が大きいと習いました。表情のついた能狂言とは、どんなものになるのか興味が深まった事を覚えています。と同時に、外国人が着物を着るような、日本の伝統を踏まえてはいるけれど本質まったく別物になってしまうのでは、という疑問も持ちました。

今日、実際に手話狂言を観て、やはりろう者の方々が狂言をやっていると強く感ぜられました。表情が付き、手話によって動きが格段に増えた手話狂言にはろう者独特のにぎやかさがありました。

それが良いか悪いかは問題ではないかと思いますが、手話狂言の目指すところによっては、向き合わなければならない事もあるかと思えます。これから成長していく手話狂言を今日観られて幸いでした。1人の健聴者として応援しています。

- ・狂言は初めて観させていただきました。とても迫力があり、笑いもありとても良い経験をさせていただきました。手話はあいさつ程度できますが、もっとできるようになりたいと思いました。
- ・手話と狂言はすごく合っていて、言葉と手の動作によるコミュニケーションのツールが2つ使われていることによって、より客に表現が伝わりました。今回この講座を受けて勉強もでき、手話についてもっと考える良い機会になりました。
- ・手話狂言講座を受講せず今回の鑑賞教室に参加しました。講座を受講していれば、もっと理解が深まったかなと思わず少し残念に思いましたが、言葉がわかりづらい部分を手話（特に象徴的 Symbolic なもの）がフォローしていて、手話を学んだことのない自分でも手話に助けられながら観ていることに気がつきました。英語の翻訳について学んでいます。手話の翻訳についても考えるきっかけになりました。

## 5. 背景・目的

- ・手話への理解を深める。
- ・伝統芸能への理解を深める。





# 41. チーム・オレンジ企画 岩手・宮城 東北被災地スタディツアー

**日時**：2016年3月1日（火）～3月4日（金）

**場所**：宮古市、陸前高田市、気仙沼市

**概要**：

## 1. 内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが電通育英会助成事業である岩手・宮城被災地スタディーツアーを3月1日（火）～4日（金）の期間で実施し、31名の学生が参加しました。スタディーツアーという形態で参加へのハードルを下げ、まだ被災地を訪れたことのない学生に足を運んでもらうきっかけを作ること、実際に被災地にいった学生が周囲の人に体験を語り、少しでも多くの人に被災地のことを考えてもらうことを目的として本ツアーを企画しています。

ツアーは、チーム・オレンジの学生が当日の運営を含めて全て自分たちで考案し、参加学生のために入念に準備して実施しました。またツアーの実施前（2月26日）には事前説明会を実施し、ツアーの実施後（3月8日）には報告会も実施しました。

1日目は、釜石駅に夜行バスで到着後宮古市に移動し、宮古観光文化交流協会が主催する「学ぶ防災ガイド」に参加しました。東日本大震災の影響で甚大な被害が出てしまった田老地区の災禍の記録を防潮堤に上って教えて頂き、その後事務所に移動し、田老観光ホテルの松本社長が震災当日に撮影した津波の映像を見ながら、津波の恐ろしさについてお話しして頂きました。浄土ヶ浜にて昼食をとった後、有限会社丸徳に移動して竹輪作り体験を行いました。有限会社丸徳は、東日本大震災の影響で一度は再建を諦めましたが、店の看板を守りたい、伝統の味を絶やしてはいけないと平成26年の8月に操業を再開しました。参加学生は震災の復興を感じながら、竹輪作りを体験することができました。

2日目は、陸前高田市に移動し、高田松原や奇跡の一本松を見学後、気仙沼市に移動し、リアスアーク美術館にて、震災後に回収された様々な生活用品等の展示（解説文付）を見学しました。その後再び陸前高田市に戻り2時間程度のボランティア（ネギ畑の整備）を実施し、現地の被災者の方から復興の状況についてお話し頂きました。

3日目は、陸前高田市で被災者の方との交流会を実施しました。高田一中仮設、中田公営住宅に移動し、まずチーム・オレンジの学生が作成した「チーオレ新聞」を用いて法政大学が被災地で実施してきたボランティア活動及び東京で実施している被災地支援について報告し、交流を深めました。高田一中仮設では、被災者の方から踊りを教えていただいたり、法政のOBがいたことから法政大学校歌を全員で合唱するなどしたり、有意義な時間を過ごせ、学生たちは被災地の現状について改めて学ぶことができました。その後唐桑半島に移動し、ビジターセンターのガイドのもと、

東日本大震災の津波によって、海中から浜に打ち上げられた大きな「津波石」を見学するトレッキングツアーに参加しました。

## 2. 参加者の感想

○被災地に足を運び、生のお話を聞き、普段テレビ等で震災関連の番組を観ても得られないようなことをたくさん吸収できるので、とても良い企画だなと思いました。今回得たことをこれからの活動に活かしたいです。

特に震災を風化させないこと。防災・減災の意識を高めることの重要性に改めて気付かされました。学生間で防災について啓発することは、なかなか難しいように感じるのでこれからの活動に工夫を加えたいと思いました。

○交流会で私が話した方は、自ら積極的に震災当時のことを話してくださり、今までしらなかった事実なども知ることができてとても有意義だった。また私の地元や家族の話をするとうれやうれで嬉しかった。初めは緊張して上手くお話しできるか不安だったけれど、盛り上がるのが出来てよかった。

○今回のツアーを通して震災について知らなかったたくさんを知りました。震災があつてから実際に足を運んでみたいとは思いつつもなかなか機会がなかったので、今回は貴重な体験が出来てよかったです。

また、地元の人たちが優しく迎えてくれたこともとても心に残りました。今回のツアーで得たことを東京に戻ってから、何らかの形で活かしていけるように自発的に考えていこうと思います。

#### 4. 背景・目的

- ・今まで行った経験のない一般学生の被災地での視察。
- ・現地での体験を今後のボランティア活動などに生かす。
- ・学生の自主性を促す。(企画などに)



# 42. 3. 11 東日本大震災復興募金活動

**日時**：2016年3月11日（金）

**場所**：JR市ヶ谷駅周辺、JR飯田橋駅周辺

**概要**：

## 1. 内容

東日本震災復興募金活動は、今回で5回目となります。昨年に引き続き法政大学の学生だけでなく、附属高校（法政大学中学高等学校、法政大学女子高等学校）の生徒と共に行いました。

活動は、大学生10名・中高5名・女子高13名の総勢28名で行いました。

寒い雨の降る天候の中、飯田橋駅前2か所と市ヶ谷駅前2か所の計4か所で募金活動を実施しました。募金金額は、合計で377,562円となりました。こちらを3等分（125,854円）し、3月14日に岩手県・宮城県・福島県が設置する復興支援義援金に全額寄付をいたしました。

## 2. 参加者数

28名

## 3. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

○学生の感想

・4年間しめくくりとなりました。入学した年は震災から1年後で、生々しい活動もありました。5年経って活動内容もあかるく楽しいものになってきましたが、その裏で深刻化している問題もあります。復興の光と影の差が大きく広がっていく中、このような風化を防ぐ取組みに携われることができ良かったです。

（大学4年）

・考えていたよりも多くの方が足を止めてくださり、驚くと共に感謝の気持ちでいっぱいになりました。特徴としては、ご年配の方が募金をしてくださる事が多い印象を持ちました。またスーツを着た就活生の先輩方も多くご協力していただきました。

しかし、同年代の方からのご協力を得ることは難しく感じました。金額に関わらず被災地を思ってくださいの姿はともうれしかったです。

節目にこのような活動を行うことは義援金という形での支援と「被災地を忘れない」という思いを伝え風化を防ぐための支援になると思いました。

また14:46分にこの活動に参加することができ、感慨深いものがありました。（大学1年）

・毎年募金に参加しました。それぞれ比較していくと、やはり大学1年生の時の募金活動が多くのひとに協力してもらっていたと思います。

一般的に、大災害が起こってその災害についての意識があるのは、被災者以外の方は3年、被災者は10年と言われています。大学1年生の時は東日本大震災が起こってからちょうど3年でした。

呼びかけを行うと、募金に協力してくれる人もしてくれない人もこちらに注目してくれました。ですが4年目の2年生の時は1年生の時と比べられないくらい意識を向けている人が少なかったです。

そして今年震災から5年経ちました。昨年と同じ場所に立ち、やはり昨年より意識をむけてくれる人が少なくなったというのが正直な印象です。

募金活動を行う事で思い出してもらえればいいのですが、活動がなくなったら、忘れてしまう人がほとんどだと思います。



いました。活動は続けていくべきではないかと思いました。(大学3年)

#### 4. 背景・目的

- ・経年変化する復興支援に対するボランティアへの再認識。
- ・被災地支援ボランティアへの理解。
- ・法政大付属高との連携。



市ヶ谷駅周辺①



市ヶ谷駅周辺②



飯田橋周辺①



飯田橋周辺②



振り返り・報告会の様子



集合写真

## 43. 飯田橋グランブルーム まちのわ「桜まつり」

日時：2016年3月25日（金）・3月26日（土） 土曜日のみ参加

場所：飯田橋グランブルーム

概要：

### 1. 内容

飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は和をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントとなりました。

市ヶ谷ボランティアセンターは、登録団体と連携し本イベントを盛り上げ、862名（法政大学のブースの参加者数）の方々に参加していただきました。

○各団体が実施した内容は以下の通り

#### 1. 児童文化研究会&東京・春・音楽祭&株式会社 KADOKAWA

- ・東京春祭 for kids

株式会社 KADOKAWA が出版している「はなかつぱ」の絵本（巨大絵本）の読み語りを児童文化研究会が行いその読み語りに合わせて、東京・春・音楽祭の演奏者が音楽を奏でました。

#### 2. 茶道研究会

- ・まちのわ茶会

茶道研究会がお茶を点て、お菓子とお茶を来場者にふるまいました。また、お茶の作法についても教えることができました。

#### 3. GRANDS

- ・チアリーディングパフォーマンス

まちのわ桜まつりにむけてGRANDSがオリジナルプログラムを考案し、チアリーディングパフォーマンスを披露しました。300名以上の来場者に参加していただきました。

#### 4. IVUSA

- ・キッズ昔あそび体験

ベーゴマやけん玉、おはじきなどの昔ながらの遊びを体験できるコーナーを設置し、来場した子どもたちと一緒に遊びました。

#### 5. 三曲会

- ・和楽器コンサート

「SAKURA」「風のモザイク」を演奏し、和楽器の素晴らしさ、春の訪れを来場者にとどけることができました。

#### 6. 児童文化研究会

- ・絵本読み聞かせコーナー



手作りの大きなカブの絵本を子どもたちに読み聞かせしました。

## 7. II部美術研究会

### ・プラバンでキーホルダーつくろう

子どもたちとプラスチックの板に字や絵を描いて、オーブントースターで焼き、オリジナルキーホルダーを作りました。

## 8. 落語研究会

### ・サクラ寄席

野外広場にて、落語研究会が落語と玉すだれを披露し、会場が笑に包まれました。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来ました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

## 2. 参加者数

862名（来場者含む）

## 3. 背景・目的

- ・地域貢献ボランティア。
- ・各サークルの特徴を生かした活動発表の場。





2015年度 学生スタッフ（VSP）活動カレンダー

	月日	曜日	ミーティング・イベント・訪問	ミーティング・イベント・訪問内容
4月	4月10日	金	第1回ミーティング	エコキャップ回収予定、春のボランティアWEEK、富士山外来植物駆除ボラ、キャンパス周辺清掃について。
	4月13～17日	月～金	春のボランティアWEEK	ボランティアサークル合同新歓イベント。13日～17日活動展示、説明会も実施。
	4月24日	金	第2回ミーティング	ハンガリー剣道ナショナルチームと散歩する文化交流ボラ、第1回ボランティア総合講座、キャンパス周辺清掃、春のボランティアWEEKふりかえり。
5月	5月1日	金	第3回ミーティング	ハンガリー剣道ナショナルチームと散歩する文化交流ボラ、通信病院ボラについて、エコキャップ回収、ボランティア総合講座、富士山外来植物駆除ボラについて。
	5月8日	金	第4回ミーティング	通信病院ボラ打ち合わせについて、ボランティア総合講座、富士山外来植物駆除ボラ、エコキャップ活動表彰について、新入生獲得策について。
	5月15日	金	第5回ミーティング	ハンガリーナショナルチームボラ事前打ち合わせ、通信病院ボラ打ち合わせ報告、ボランティア総合講座実施報告、富士山外来植物駆除ボラ打ち合わせ報告。
	5月17日	日	富士山外来植物駆除ボランティアツアー	市ヶ谷ボランティアセンター基幹プロジェクト。企画スタッフとして参加。
	5月20日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	5月21日	木	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア事前研修会	ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編。
	5月22日	日	第6回ミーティング	キャンパス周辺清掃実施報告、富士山外来植物駆除実施報告、ボランティア総合講座について。
	5月25日	月	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア～皇居散策編	ハンガリー剣道ナショナルチームと共に皇居の散策をする。英会話、ジェスチャーを交えながら皇居周辺の案内をする。
	5月26日	火	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア～神楽坂ツアー編	ハンガリー剣道ナショナルチームと共に神楽坂散策をする。英会話、ジェスチャーを交え、日本文化に触れながら神楽坂の案内をする。
	5月29日	金	第7回ミーティング	ハンガリーナショナルチームボラ実施報告、富士山外来植物駆除実施報告、ピアネット七夕企画、新宿区立小学校ボランティア、エコキャップ回収、ボラ総合講座、夏ボラWEEKについて。
6月	6月5日	金	第8回ミーティング	ピア・ネット七夕企画、ボラ総合講座、新宿区立小学校ボランティア、エコキャップリサイクル工場ツアー、夏のボランティアウィーク、ピア・ネット合同研修会について。
	6月10日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	6月12日	金	第9回ミーティング	ボランティア総合講座、新宿区立市谷小学校ボランティア、サクラテラスまちのわイベント、VSP説明会、ピア・ネット合同研修会、キャンパス周辺清掃、ピア・ネット七夕企画、夏のボランティアWEEKについて。
	6月19日	金	第10回ミーティング	ボランティア総合講座、ピアネット合同研修会、新宿区立市谷小学校ボラ下見実施報告、エコキャップ回収日程、ピアネット七夕企画、ボランティア総合講座企画内容、夏ボラWEEKについて。
	6月20日	土	エコキャップリサイクル工場見学ツアー	学生スタッフ企画。毎月回収しているエコキャップが回収後どのようにリサイクルされていくのかを工場見学により学ぶ。
	6月29日	月	ボラセン学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小子どもひろば編～	新宿区市谷小学校での放課後子どもひろばでの活動。大学の地域貢献を推進するため、新宿区社会福祉協議会と連携し企画。
7月	7月1日～7月7日	水～火	七夕フェスタ	七夕の装飾をした通路で学生向けにボランティアの紹介やボランティア団体への勧誘をする。
	7月2日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	7月3日	月	第11回ミーティング	市谷小ボランティア報告、第3回ボランティア総合講座、サクラテラス「まちのわ」イベント、ピアネット合同研修会、学祭について、キャンパス周辺清掃、エコキャップ回収について。
	7月6日～10日	月～金	夏のボランティアWEEK	ボランティア学生団体紹介イベント。9日説明会、6日～10日展示。エコキャップ顔出しパネルも展示。
	7月7日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	7月8日	水	第3回ボランティア総合講座「盲導犬とのふれあいから学ぶ盲導犬の一生について」	盲導犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生を学び、盲導犬に対する理解を深めることを目的とした講座。
	8月3日	月	ピアネット合同研修会	キャッチコピーを考える、広告業界で経験がある講師より学ぶ。
	8月4日	火	第12回ミーティング	学祭について：おでん販売、ピラ作成。
9月	9月1日	火	第13回ミーティング	学祭について。
	9月5日	土	サクラテラス「まちのわ」防災Festa	飯田橋グラブルーム管理組合主催。飯田橋で生活する、働く、学ぶ人々の交流の場として例年開催されている、今回は「防災」がテーマ。理工学部稲生ロボットの研究室、キャリアデザイン荒川ゼミ、チーオレ、キャンエコ、VSP、IVUSAが参加。
	9月7日	月	夕張まちづくりボランティア事前研修会	夕張まちづくりボランティアの詳細説明、確認など
	9月10日～12日	木～土	夕張まちづくりボランティア	北海道夕張市での北炭夕張炭鉱千歳鉱坑口の雑草除去作業、「あーりさだ」の障害者イベントお手伝い、市関係者とのミーティングなど。
	9月16日	水	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	9月18日	金	第14回ミーティング	第4回ボランティア総合講座、富士山清掃、エコキャップ回収、ピアネット合同研修会参加報告、サクラテラス「まちのわ」イベント報告、夕張まちづくりボランティア報告、学祭関連、今後のボランティア総合講座等。
	9月25日	金	第15回ミーティング	富士山清掃ボランティア、富士見わんぱくひろばボランティア、キャンパス周辺清掃、エコキャップ回収、古着の回収ボランティア、学祭について、ボランティア総合講座。
	9月29日	火	第16回ミーティング	学祭（スケジュール、備品、ピラについて）。
	9月30日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
10月	10月2日	金	第17回ミーティング	富士山清掃ボランティア、富士見わんぱくひろばボランティア、ハロウィン清掃、エコキャップ回収、学祭、古着の回収ボランティア、冬のボランティアWEEK、今後の予定。
	10月7日	水	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	10月9日	金	第18回ミーティング	富士山清掃、富士見わんぱく広場、ハロウィン清掃日程、エコキャップ回収、キャンパス周辺清掃日程、学祭関連、冬ボラWEEK、古着の回収ボランティア。
	10月13日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	10月16日	金	第19回ミーティング	学祭関係、冬のボランティアウィーク、ボランティア総合講座、古着回収ボランティア。
	10月23日	金	第20回ミーティング	ボランティア総合講座4回：田辺凌鶴、富士山清掃ボラ、富士見わんぱくボラ、学祭関連、冬ボラWEEK、ボランティア総合講座5回について、古着の回収ボランティア。

	10月24日	土	富士見わんぱくひろば「わんぱくごどもまつり」	千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくごどもまつり2015」への協力。
	10月24日	土	ボランティアセンター学生スタッフVSPが企画する地域貢献ボランティア	VSPが主動になり、千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくごどもまつり2015」へのボランティアの運営・企画を行う。マジシャンズクラブ、児童文化研究会、VSP、一般応募した学生との調整。
	10月25日	日	富士山清掃ボランティアツアー	富士山麓周辺の清掃活動。
	10月26日	月	ボランティア総合講座第4回 講師 田村凌鶴が語る「夕張市長 鈴木直道」	真打講師 田村 凌鶴さんの講話。夕張市、夕張市長について語る。
11月	11月6日	金	第21回ミーティング	ボランティア総合講座第5回（古着回収）、ファッション入門講座、DIALOG IN THE DARK、学祭反省、冬のボランティアWEEK、ボランティア総合講座、古着の回収ボランティアについて。
	11月13日	金	第22回ミーティング	ボランティア総合講座第5回（古着回収）、ボランティア総合講座第6回（ユニバーサルデザイン講座）、冬のボランティアWEEK、ボランティア総合講座の企画について、NPO就労者と関心者の座談会。
	11月17日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	11月20日	金	第23回ミーティング	ボランティア総合講座第5回（古着回収）、ボランティア総合講座第6回（ユニバーサルデザイン講座）、NPO職員との座談会、「手話狂言・初春の会」鑑賞教室、ピアネット研修会、冬のボランティアWEEK、市谷小学校子ども広場ボランティア。
	11月24日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	11月27日	金	第24回ミーティング	第5回ボランティア総合講座、第6回ボランティア総合講座、NPO職員との座談会、ピアネット研修会、冬ボラWEEK、市谷子ども広場ボランティア。
12月	12月1日	火	ボランティア総合講座第5回「今、私たちに必要とされている国際協力～古着回収ボランティアでみる難民支援～」	冬のボランティアWEEKの時に古着回収BOXを設置して回収を呼びかける。その事前説明（ユニクロの担当者が講義）。
	12月4日	金	第25回ミーティング	第5回ボランティア総合講座、第6回ボランティア総合講座、NPO職員との座談会、ピアネット研修会、冬ボラWEEK、市谷子ども広場ボランティア、各イベント宣伝方法、学祭の利益の使用など。
	12月11日	金	第26回ミーティング	第6回ボランティア総合講座：ユニバーサルデザイン（12/18）、第7回ボランティア総合講座：NPO職員との座談会（1/14）、古着回収ボランティア、市谷小ボランティア、冬ボラWEEK。
	12月14日	月	ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小子ども広場編～	新宿区市谷小での小学生と遊ぶボランティア。
	12月14日～18日	月～金	おうちに余っている服どうしますか？（ユニクロとコラボした古着回収ボランティア）	メディアラウンジに古着回収BOXを設置。古着の回収をして難民支援をするボランティア。
	12月17日	木	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	12月18日	金	ボランティア総合講座第6回 通学路に見るユニバーサルデザイン講座	普段の生活の中でのユニバーサルデザインについて知識を深める。
	12月18日	金	第27回ミーティング	第6回ボランティア総合講座：ユニバーサルデザイン（12/18）、第7回ボランティア総合講座：NPO職員との座談会（1/15）、古着回収ボランティア実施報告、市谷小ボランティア反省、冬ボラWEEK反省、サクラテラスまちのわいイベント。
	12月22日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
1月	1月8日	金	第28回ミーティング	ボランティア総合講座第7回（NPO）、古着回収ボランティア、手話狂言・初春の会鑑賞教室、ボラセンパンフキャッチコピー、VSP代表について、第6回ボランティア総合講座報告、サクラテラスまちのわいイベント、春ボラWEEK、新歓期間について。
	1月13日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	1月14日	木	ボランティア総合講座第7回 ディスカッションから学ぶNPOへの就職	現役NPO職員に聞く体験。
	1月15日	金	第29回ミーティング	第7回ボランティア総合講座、古着回収ボランティア、ボラセンパンフレットキャッチコピー、入試補助員について、サクラテラスまちのわいイベント、春ボラWEEK、新歓について、今後の予定。
	1月20日	水	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
2月	2月18日	土	第30回ミーティング	連絡事項：3.11募金活動、春ボラ、新歓期間について、新入生向け企画：エコキャップDEキャンパスツアー、キャンパス周辺清掃、MTGについて、今後の予定。
3月	3月14日	木	第31回ミーティング	連絡事項：ユニクロ報告会、春ボラ、新歓期間、新入生向け企画：エコキャップDEキャンパスツアー、キャンパス周辺清掃、MTGについて、今後の予定。

部分は、実際のイベントや講座等の日程（ミーティング以外）

【付記】

- 2015年度は原則、金曜日の昼休みにミーティングを実施。
- ミーティングは原則、職員が同席した。
- 毎月エコキャップ回収活動を実施（9月から）。

2015年度 チームオレンジ活動カレンダー

	月日	曜日	ミーティング・イベント・訪問	ミーティング・イベント・訪問内容	
4月	4月9日	木	第1回(前期)放課後ミーティング	団体活動内容紹介、各プロジェクトの紹介、1年生自己紹介、プロジェクトごとの分科会。	
	4月13~17日	月~金	春のボランティアWEEK	ボランティアサークル合同新歓イベント。13日~17日活動展示、説明会も実施。	
	4月22日	水	第3回(前期)放課後ミーティング	会議、ミーティングスケジュール告知、各プロジェクトの情報共有、スタディツアー紹介、グループディスカッション。	
5月	5月8日	金	第3回(前期)放課後ミーティング	活動報告、情報共有(物産展、ボランティア総合講座)、EMT Gについて、子供支援、ITボラについて。	
	5月12日	火	第1回昼ミーティング	防災班、ボランティア総合講座の紹介、新1年生への連絡等。	
	5月18日	月	第4回(前期)放課後ミーティング	班ごとの活動を紹介、ボスターの原案作り、福島復興ツアーについて。	
	5月19日	火	第2回昼ミーティング	スタディツアーについて、千代田の防災プロジェクト、ボランティア総合講座、物産展、学祭について。	
	5月26日	火	第3回昼ミーティング	情報共有、BBQ、学祭班、今後の予定について。	
6月	6月2日	火	第4回昼ミーティング	活動報告、情報共有(学食班、物産展、ボランティア総合講座、スタディツアー、子供支援)、学祭について、七夕企画について、ピアネット研修会について。	
	6月9日	火	第5回昼ミーティング	各明進捗(学食班、スタディツアー班、物産展班、子供班)、七夕企画、サクラテラス、学祭、その他情報共有(さんさん広場、石巻ボランティア)	
	6月9日	木	ボランティア総合講座第2回 被災地の「今」を知る～沿岸被災地後方支援	遠野山・里・暮らしネットワーク 田村 隆雅氏の講座。被災地の現状把握と求められるボランティアについてなど。	
	6月10日	水	第5回(前期)放課後ミーティング	防災班発表、勉強会発表(1班:福島の震災の影響と復興、5班:東日本大震災の被害状況からの統計調査など)、遠野ボランティアについて。	
	6月14日	日	千代田防災プロジェクト	明治大学駿河台キャンパスにて3大学(専修大、明治大、法政大)、千代田社会福祉協議会合同の防災プロジェクト。交流を交えながら、避難用ツール作り、非常食の実食、クロスロードなど避難所などで実際に使われる状況などを想定したプログラムを実施。	
	6月16日	火	第6回昼ミーティング	復興BARのお手伝い、スタディツアー班、物産展、子供支援、防災さんぽ、遠野ボランティア、ボスター担当、学祭、石巻ボランティア、七夕企画について。	
	6月22日	月	第7回昼ミーティング	各明進捗(学食班、スタディツアー班、物産展班、子供班)。	
	6月23日	火	第6回(前期)放課後ミーティング	サクラテラスまちのわイベント、勉強会(4班:東北支援について、3班:私たちにできる防災、2班:東北の観光と震災、さんさん夏祭り等)。	
	6月30日	火	第8回昼ミーティング	情報共有:南雲さんから 活動報告:学食班、防災班、スタツア、七夕企画、まちのわ、物産展 平井さんからさんさん広場の紹介、夏ボラWEEK	
	7月	7月1日~7月7日	水~火	七夕フェスタ	七夕の装飾をした通路で学生向けにボランティアの紹介やボランティア団体への勧誘をする。
7月6日~10日		月~金	夏のボランティアWEEK	ボランティア学生団体紹介イベント。9日説明会、6日~10日展示、エコキャップ顔出しパネルも展示。	
7月7日		火	第3回(前期)放課後ミーティング	情報共有:防災散歩、復興バー、石巻ツアー 活動報告:スタツア、物産展 学祭について、前期振り返り等。	
7月14日・15日		火・水	東北物産展	岩手、宮城、福島の3県の商品を販売、売上を岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付。	
7月21日		火	第9回昼ミーティング	ランチミーティングについて、活動報告:物産展、防災散歩、学祭、遠野、子供支援、まちのわ、スタツアについて。	
7月14日・15日		月・火	被災地の物産品を売ろう!「東北物産展」	かもめの玉子、さるなしドリンク、大籠さしこ、ふかひれスープなどの東北物産の学生の企画で行う。	
8月		8月21日	金	遠野・被災地自立支援ボランティア事前説明会	遠野ボランティアの詳細説明、確認。グループ顔合わせ。
8月	8月25日~8月29日	火~土	遠野・被災地自立支援ボランティア23次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。	
	8月27日~8月31日	木~月	遠野・被災地自立支援ボランティア24次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。	
	8月29日~9月2日	土~水	遠野・被災地自立支援ボランティア25次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。	
	8月31日~9月4日	月~金	遠野・被災地自立支援ボランティア26次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。	
	9月	9月5日	土	サクラテラス「まちのわ」防災Festa	飯田橋グランドブルー管理組合主催。飯田橋で生活する、働く、学ぶ人々の交流の場として年間開催されている、今回は「防災」がテーマ。理工学部補生ロボット研究室、キャリアデザイン荒川ゼミ、チーオレ、キャンエコ、VSP、IVUSAが参加。
9月	9月12日~13日	土・日	住友商事ユースチャレンジフォーラム中間発表	チームオレンジが住友商事側助成対象団体としての活動報告をする。	
	9月14日	月	夏休み会議	まちのわ防災フェスタ、遠野被災地自立支援ボランティア、次期代表、学祭について、東北物産展、千代田防災プロジェクト、今後についてなど。	
	9月18日	金	遠野・被災地自立支援ボランティア報告会	遠野・被災地自立支援ボランティアの活動報告会。	
	9月20日	日	法政フェア	法政フェアでの「東北物産販売」物産展の売上は、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付。	
	9月29日	火	第1回(後期)ランチミーティング	物産展、代表、副代表について、遠野報告会について。	
	10月	10月6日	火	第2回(後期)ランチミーティング	福島スタディツアー、学祭、学食企画について。
		10月13日	火	第3回(後期)ランチミーティング	教室の使い方、子供支援について
		10月14日	水	第1回(後期)放課後ミーティング	防災訓練(総務課)、物産展、子供支援、宮城岩手スタツア、意見交換
		10月20日	火	第4回(後期)ランチミーティング	学食企画、防災イベント(1年生企画)、防災訓練(12/8教職員向け)
		10月23日	金	第5回(後期)放課後ミーティング	学祭について、学食企画、防災訓練12/8、防災班12/18、意見交換、googleドライブ、新入生向け交流会、SNSについて
10月	10月27日	火	第5回(後期)ランチミーティング	防災イベントについて、スタツアについて、学祭について	
	11月	11月10日	火	第3回(後期)放課後ミーティング	アズリレーション入門講座、「ピアネット研修会」学祭報告、「チーオレ」の紹介、教室予約のしかた、「プロジェクト別予定(防災班、学食班、スタツア班)」、チーオレ外活動など
	11月16日~12月4日	月~金	「お騒がせはん東北へかけませんか?」	学食でのチームオレンジ企画、東北復興支援メニュー。	
	11月17日	火	第6回(後期)ランチミーティング	学食企画について、来月の予定など	
	11月24日	火	第7回(後期)ランチミーティング	防災(12/8・18)企画、子供支援(12/18~20朝)、スタツア(福島スタツア11/29、岩手・宮城スタツア下見12/25)、学食企画について	
11月	11月27日	金	第4回(後期)放課後ミーティング	福島スタツア(11/29)スケジュール確認、防災訓練講座(12/8)、起震車・非常食体験(12/18)、冬ボラWEEK、3.11募金、放課後会議について、これまでの活動について、東洋大学との情報交換	
	11月29日	日	福島スタディツアー	被災地支援への現地確認と現状把握。	
	12月	12月1日	火	第8回(後期)ランチミーティング	冬のボランティアWEEK、スタツア(11/29実施)について、学食企画について
	12月8日	火	学生スタッフが教職員に教える応急救命講座	チーオレの学生スタッフが教職員に教える応急救命処置講座。	
	12月10日	木	第5回(後期)放課後ミーティング	学食企画について振り返り、防災(12/8)実施、岩手・宮城被災地スタディツアー、子供支援助成金、2015年振り返り	
	12月14日~12月18日	月~金	冬のボランティアWEEK	ボランティア活動紹介イベント、活動記録掲示。	
	12月15日	火	第9回ランチミーティング	スタツア(募集開始、事前研修会、事後報告会)、防災(起震車)について	
	12月18日	金	起震車・非常食試食体験	チームオレンジ防災班企画、起震車で地震計体験と非常食の試食体験会。	
	12月22日	火	第10回(後期)ランチミーティング	子ども支援、防災(12月18日起震車、非常食)、学祭について	
	1月	1月13日	水	第6回(後期)放課後ミーティング	岩手・宮城スタツア、3月中旬子供支援、遠野下見、新歓について、今年度の活動振り返り
1月19日		火	第11回(後期)ランチミーティング	新歓について、追い出しコンパ、スタツア、次回の予定など	
3月	3月1日~3月4日	火~金	岩手・宮城 東北被災地スタディツアー	被災地支援への現地確認と現状把握。	
	3月11日	金	3.11大学・付属校合同被災地支援募金活動	東北大震災の募金活動。募金は東北の岩手県・宮城県・福島県の復興支援義援金に寄付される。	
	3月16日	水	第7回(後期)放課後ミーティング	新入生歓迎、スタディツアー、遠野ボランティア下見について、3.11募金について、物産展企画、新企画(多摩ボラセンド)、春ぼらWEEK、4月の会議予定、ITボランティア募集。	

部分、実際のイベントや講座等の日程  
 【付記】

- 毎週木曜日の昼休みに実施。前期は毎月10日・25日18:30~20:30で放課後ミーティング。
- その他、前期は毎週月曜日昼休みに幹部ミーティング、後期は第2・4火曜日昼休みにプロジェクトリーダーミーティング。
- ミーティングは原則、職員が同席した。